江戸名所圖會

巻四

上

124
20
114

帝國圖書館藏

ガラス使用

江戸名所図會　十二

四上

124
20
114

東京圖書館
和書門
地理類
礼函
六架
二〇號
二〇冊
二九
二四

江戸名所圖會巻之四

天權之部 目録

市谷八幡宮（茶木稲荷）
藥王寺（一本藥師）
大窪映山紅
鎧明神祠
中野成願禪寺
寶仙寺（大師堂　三層塔）
阿佐谷神明宮
慈宏寺
金井橋（金看花碣）
神樂坂
閻魔堂

藥王寺（稲荷祠）
大窪天滿宮
自證院
淀橋（水車）
中野長者昌蓮墓（撞楼　二王門　[illegible]枕骨）
堀の内妙法寺（加持符）
井頭辯財天宮
津久戸明神社
若宮八幡宮
松源寺

月桂寺（安産宝珠）
七面大明神社
西迎寺
角筈十二所權現社（熊野瀧）
中野
桃園
大宮八幡宮（鞍掛松）
井頭池（御楊枝柳　三ツ柳）
築土八幡宮（襟掛銀杏）
行元寺
正蔵院

安養寺（稲荷祠　八幡宮）
諏訪明神社
圓照寺（右衛門桜）
中野七塔
桃園觀音堂
幡ケ谷不動堂（[illegible]）
逢坂
牛込城址
赤城明神社

東京圖書館藏
帝國圖書館藏
故榊原芳野納本
榊原家藏
小林藏書
国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114
ガラス使用

沽殿山
大友松（大友稲荷祠）
幸国寺（布引祖師）
感通寺（毘沙門天 摩利支天）
金川
放生池（能化鏡塚）
寶泉寺（出現石）
百八塚
荒闇山
（朝日桜 諏訪祠）
氷川明神社
落合土橋
木花開耶姫社

海松寺
宗柏寺
願満祖師堂
三国傳来千手観世音（若宮八幡宮 観音）
高田八幡宮（神泉）
高田稲荷社
高田冨士山（浅間祠）
高田天満宮
山吹の里
俤橋
石橋
奥州橋
藤杜稲荷社

豊後小侍従大友義延舊館之地
宗参寺（大胡氏墓 棠の梅）
早稲田神明宮
千手院
赤城明神舊地
誓閑寺（稲荷 垂枝桜 氷室明神祠 楼門）
自楽居士墓（放生寺 穴八幡宮 光松）
本地堂（鐘楼）
旗立桜（[illegible]文池）
毘沙門堂（朝日庵 千年松）
宗良親王陣営旧址
戸塚
高田馬場
和田戸山
三嶋山（三嶋祠 山吹井）
高田七面堂（世尊堂 朝日堂）
姿見の橋
南蔵院（薬師堂 鶯宿梅）
氷川明神社
七曲坂
宿坂関舊跡
金乗院（観世音）
泰雲寺（了然尼傳 蘭斎先生墓）
一枚岩

落合螢
金剛寺（實朝公碑 地蔵堂）
大洗堰
駒留橋
関口八幡宮
大慈寺（日吉山王社 道灌地蔵尊 権現山 中門）
鐘ヶ淵
庫裡
今宮
辨財天
大師堂
仁王門
雑司谷鬼子母神堂
雑司谷鬼子母神出現所
法明寺（釈迦堂 鐘楼）
大行院（八幡宮 大黒天社 弁才天祠 経堂）

牛天神社（降魔[illegible] 牛石）
道祖神祠
龍隠庵（夕月塚）
北村季吟翁別荘地
大塚
護摩堂（惣門）
墨谷の井舊地（墨の清水）
方丈（寺中）
（鷺明神祠 年中行事 稲荷社 麦藁細工獅子 祖師堂 年中行事）
蓮成寺（沢蔵主稲荷社 無縁塚 念仏堂 無聲蛙）

氷川明神社
水神社
道山幸神祠
本傳寺（経読祖師）
室鳩巣先生墓
護国寺（本堂 冨士）
本浄寺（七面宮 大黒天）
宝城寺（子授銀杏 百家集 釈迦石像 会式諸の番）
小石川（念仏堂）

諏訪明神社
大日堂
八幡宮
目白不動堂
波切不動尊
護持院（本堂 歓喜天 薬師堂 経堂）
清立院（稲荷 [illegible] 日親上人影堂 請雨松）
本納寺（石仁王堂）
弦巻川
傳通院（御影屋 開山堂）
光圓寺

本木薬師如来
無量院（小野小町墓）
氷川明神社（[illegible]岡旧跡　[illegible]園橋）
猫貍橋
宗蓮寺（相生杖　板橋右京亮墓）
清水薬師如来
[illegible]園福寺
十羅刹女宮
観音堂（滝子）
大師堂
遅井
石[illegible]堤
石神井城址
膝折里
難波田弾正旧館地

宗慶寺（御茶局[illegible]）
白山神社（極楽水　旗桜）
十羅刹女堂（女男松）
千葉家城址
大堂（古鐘）
千葉家古城址
三宝寺（寺宝　千葉地蔵堂）
氷川明神祠
石神井明神祠
宗[illegible]寺
西[illegible]院（万蔵院　百八燈供養古碑）

（了誉上人石塔）
御薬園（初音の里）
巣鴨真性寺（六地蔵　[illegible]）
板橋驛
木下稲荷祠
熊野権現宮
松月院（千葉家墳墓）
[illegible]上観音堂（八幡宮）
三宝寺池（弁才天祠）
練馬城址
内川（いろは樋）

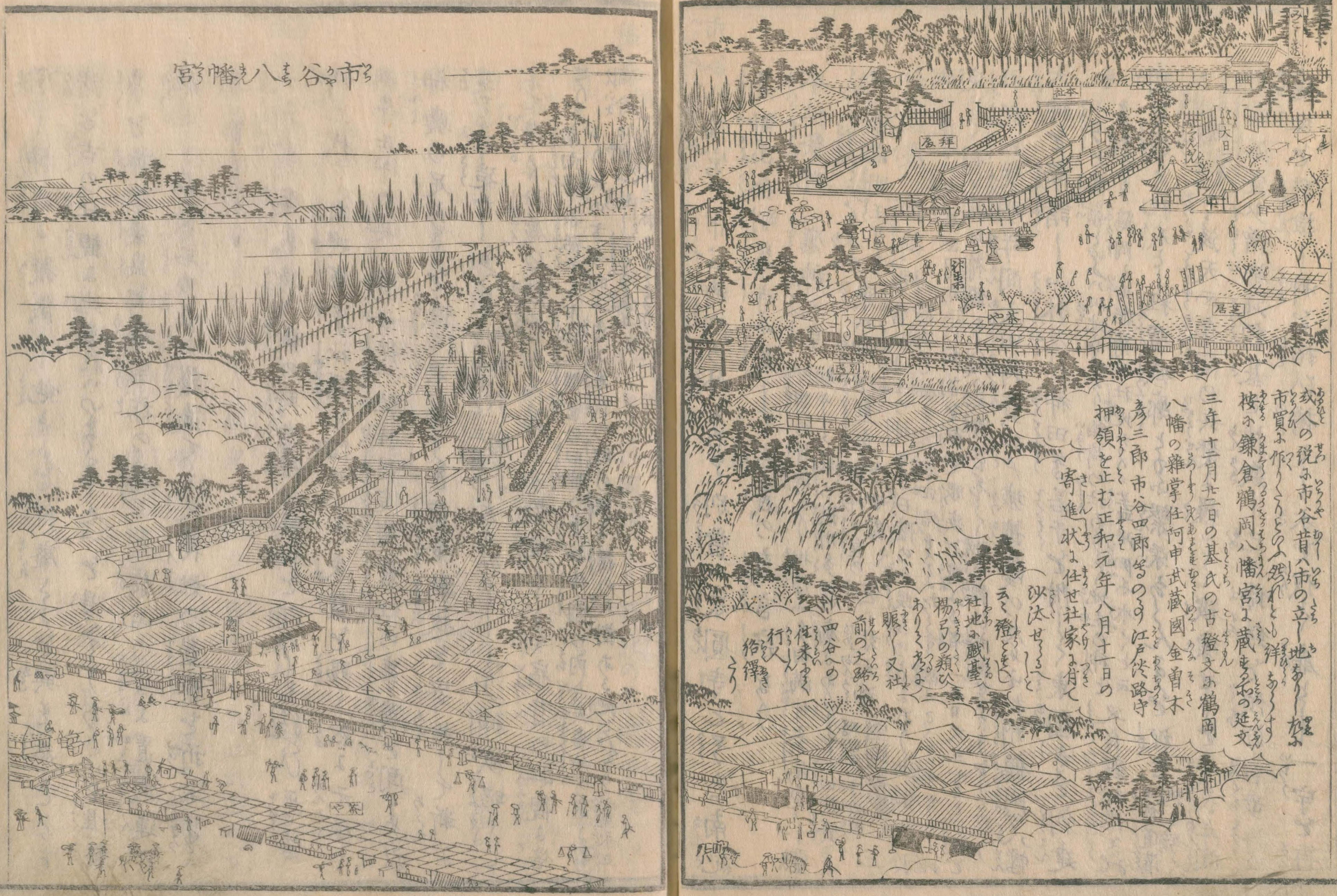
祥雲寺（茨木要朝墓）
療病院
庚申塚
板橋原
清水坂
一夜塚
赤塚明神祠
練馬長命寺（世俗新高野と云　城山　関[illegible]川）
愛宕権現宮
照日塚
立野旧跡
十玉院
阿蘇明神祠

野火留（独立禅師木碑）
狭山の池
曼荼羅淵
（箏桜　大納言の桃）
山口塁
新堀玄蕃居住地
来迎寺
薬王寺
新倉妙顕寺（釈迦堂　寺宝）
子安清水
妙典寺
大宮氷川神社（荒波々岐社　本地堂）
惠塚

平林禅寺（仏殿　業平塚）
安松長源寺
狭山
永源寺（洪鐘）
小手差原（大石氏墓碑）
勝楽寺（七社権現　薬師堂）
山口彦三郎旧址
還車阿弥陀如来
戸田川渡口
宮本簸川明神社（宝蔵　鐘楼　開山塔　二王門　文殊寺）
（宗像社　古文書）
潮田出羽守資忠城跡（同墓）

飽間斎藤氏墓碑（山門　桜車乃）
八国山
将軍塚（鐘楼　弁才天）（九十九塚　[illegible]堂）
久米川
小野天神社（末社　[illegible]天祠）
山口観音堂（阿弥陀堂　洪鐘　二王門　毘沙門天　開山塔　影向加持水）
箱の池
所沢（同卯花）
堀兼井（同碑）
新光寺
羽黒権現宮（霊泉）
渋川義[illegible]居城旧址
焼米坂
調神社
[illegible]河原（[illegible]山稲荷社）
東光寺

市谷八幡宮　市谷御門の外にあり別當ハ東圓寺と号す南紀
高野山金剛峯寺に属して古義の真言宗なり
本社祭神　應神天皇（甲冑の御神躰あり相傳ふ多田満仲崇信ありし靈軀にして往古攝州多田の廟にありしを太田持資こゝにうつしまつるといへり本地佛ハ愛染明王なり）東ハ神功皇后（應神天皇の御母君也）西ハ妃大神（天皇の御姨君宝満菩薩と云）三
神鎮座　稲荷祠（當社地主の神なり石階の中段左の方にあり世俗茶木稲荷と称す其来由信あるにたらず故にこゝに略せり）此
神の産子ハ毎歳正月元三の間茶を飲ず眼疾を患ふる者ハ一七日又三七日と日数を
定めて茶を断ち祈願する時ハ霊験いちしるく諸の願ひ成就せさるなしといへり
社記曰文明年間太田持資江戸城擁護のために相州鶴岡の八幡
大神を勧請し山林及び神田若干を附して東圓寺を創建す
（山号を稲嶺といふハ此地もとより稲荷の社あり地主の神とまる故なり鶴岡も旧稲荷の社地なり盖此例に本づくと云）又自親松推參して
樹を栽て社木とし社壇城廓と共に繁栄あらん事を祝す（土俗道灌松と号く枝葉蓁々として今尚存せ）
其後天正年間の兵燹に罹りて破壊せしを慶長年間
別當源空少僧都此頽基を憤激し己が餘鉢を傾け百歩許の
遺址を點撿し艸を結び檐とし木を伐て扉とし一宇を再



或人の説に市谷昔は市の立し地ありし故に市買に作りしといふ然れとも詳ならす按に鎌倉鶴岡八幡宮に蔵する所の延文三年十二月廿二日の基氏の古證文に鶴岡八幡の雑掌任阿申武蔵國金曾木彦三郎市谷四郎等のゝ江戸淡路守押領を止む正和元年八月十一日の寄進状に任せ社家に付て沙汰せらるへしと云々證とすへし

社地に戯臺楊弓の類ひありて殊に賑はし又社前の大路は四谷への往来ゆゑ行人絡繹たり

営し神殿に擬儀し絶たるを継廃たるを興す然れとも諸を古の壮観に比すれハわつかに十之一を得るのみかくいへとも唯幣帛を捧け粢具を盛宝祚の萬々を泰山の安に置武運の綿々たるを芥石の長に護兼ては又萬姓の豊楽を祈らせらるゝ耳なりしとそ

大神君　関東御入城の時当社の来由を問はしめ給ひ其後

御三代　大将軍家社領を附せられ朱璽を賜ふ然に元禄十五年壬午の夏　贈母従一位桂昌院殿当社の事蹟を聞しめされ神輿の足らさるを憾ミ思ハせられ黄金数枚を寄捨して新に是を奉造なし給ひしより（於是三基の神輿全く備はる）神威昭々として著く社殿の経営も又いよいよ輪奐として宿昔の壮観に倍せり

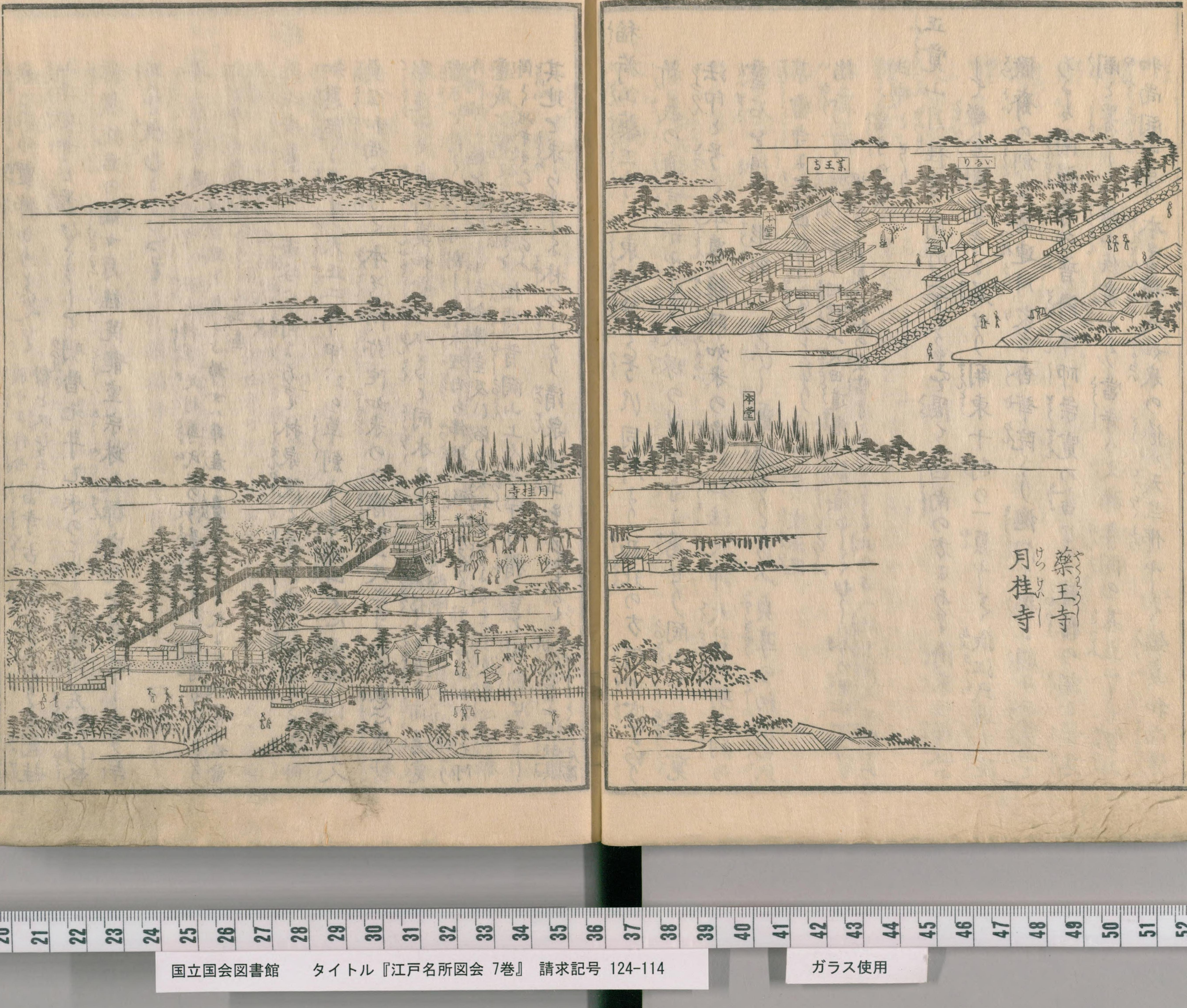
南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地ハ市谷御門の内今大番所のある所より北の方の向ふ角山本氏の邸の隅に榎の大樹ある地これなり寛永年間今の地に遷し奉る故に此榎を神木と称せるとなり

稲荷山薬王寺　東光院と号す同所より西北の方河田窪にあり新義の真言宗にして大塚の護国寺に属せり開山を澄覚法印と号く本尊薬師如来の像ハ弘法大師天台四明の洞の霊石を得て彫刻しありし霊像なりといふ貞享の初須田氏某当寺に安置なし奉るとなり（当寺昔ハ愛染院と称しけりとそ）

稲荷祠（境内にあり相伝ふ太田道灌の勧請なりとそむかしハ今の市谷御門の辺にありしとなり元和の頃当寺より二丁ばかり北の方へ遷す後又此地へうつして当寺の護法神とせり）

正覚山月桂寺　同所三丁ばかりを隔て西南の方にあり済家の禅林にして鎌倉円覚寺に属せり関東十刹の一員にして渋江氏通玄院徹斎の創立喜連川家の香華院たり総門に掲る額に正覚山とあるハ南禅寺の普済禅師崇寛の書なり鐘楼の額に華慈閣と署せしハ香山侯書なり当寺ハ文禄年間の基立にして雪山和尚開山たり本尊釈迦如来の像ハ天竺仏にして鑑真和尚携

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114　ガラス使用


藥王寺
いなり
本堂
本堂
鐘樓
月桂寺

藥王寺
月桂寺

来る所の霊佛なりといへり（腹中に佛舎利を収むと云）當寺古ハ市谷にありて圓桂山平安寺と号けゝりしを明暦元年乙未のとし喜連川左衛門督源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禅定尼を葬せしより寺号を改むるといへり

安産寶珠（當寺に安す将軍足利尊氏公の御臺所これを所持ありしとなり此霊珠を拝する婦女ハ難産の憂なしとて大に崇敬せり始當寺を平安寺と号けゝりしも出産平安の意によるならん歟）

清光山安養寺　市谷〻町にあり林泉院と号す浄土宗にして京師知恩院に属す天正二年甲戌の草創にして開山を心蓮社深誉上人貞公和尚と号く本尊阿弥陀如来の立像ハ三尺三寸あり恵心僧都の彫造にして京師真如堂の本尊と同木なりといふ（相傳ふ天長年間慈覚大師江州苗鹿明神より霊木を得て是を打割しに其木理自ら佛躰の形をあらはせり其一片の木をもて阿弥陀佛二躯を彫刻し一日吉念佛堂及ひ洛の真如堂是に安す其後恵心僧都霊威を蒙て其餘材を得て此本尊を造るといふ）相傳昔開山上人一宇の精舎を開創せんとし其地を求らるゝ時しも林の下より清泉涌出せる所あり（市谷冨士見坂其旧地にして今ハ尾陽公御館の内に入とぞ）又傍に小き祠ありて中より一疋の白狐顕れ出て深誉上人に見え恭禮するが如し依て霊地なる事を推知し其地の主島田氏某に乞得て其地に梵宇を建るとなり（明暦二年丙申此年今の地へうつるとぞ）

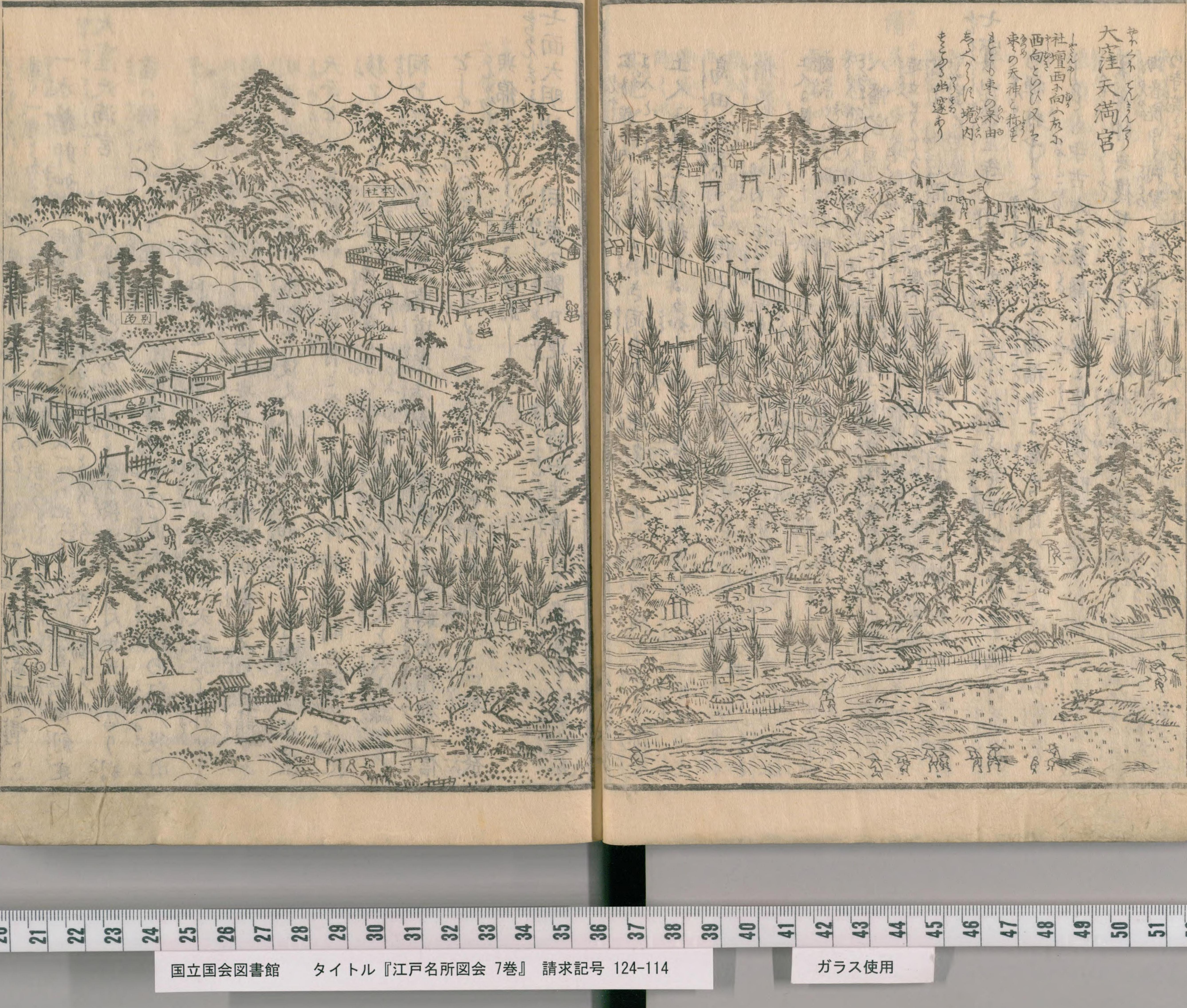
稲荷祠　境内にあり万治元年正月朔日の夜白衣の老翁住侶秀誉上人の夢に見えて告ることあり秀誉上人夢覚て後思ひあはし往古開山上人に見えたりし白狐ならんと直に稲荷明神に勧請せしとなり又其頃此地に宇田國宗といへる鍛冶居住しけるが深く是を信し此神の加護によりて火災を免かれけりとて俗間火防稲荷と称せり

八幡宮　同しく境内にあり雲州の尼子伊豫守経久城内の鎮守に崇めけりしを故ありてこゝに移しまつるといふ本地阿弥陀佛ハ定朝の作にして治安元年詔をかうふりて造立せりしとなり後月輪殿下兼実公の家に傳へ来しを経久城の鎮守としけりとなり當寺ハ俊寛僧都の持傳へし法性寺の後光佛并ひ洛の壬生寺同木の地蔵尊なるを安置す

七寶山藥王寺　同所西南の方にあり其間四丁許を隔つ黄檗派の禅林にして山城宇治の萬福寺に属せり昔ハ真言宗の古藍なりしかとも中古大に衰廢し纔に草庵の形のみなりしを元禄の頃凌雲禅師與復せりといふ（凌雲和尚ハ信州の産なり武田典厩の女の腹に生して正しく典厩の外孫なり同國小諸曹洞宗海音院にて剃髪し後黄檗と成る江戸に出て所々にある所の草庵をもして新に一宇の寺院とせんことを謀るといへとももとより寺院を新建することハ官禁なりしかハなり）

大窪天満宮

社壇西に向へるに西向といひ又ハ東の天神と称せしとも東の来由さだかならず境内すこぶる幽邃なり

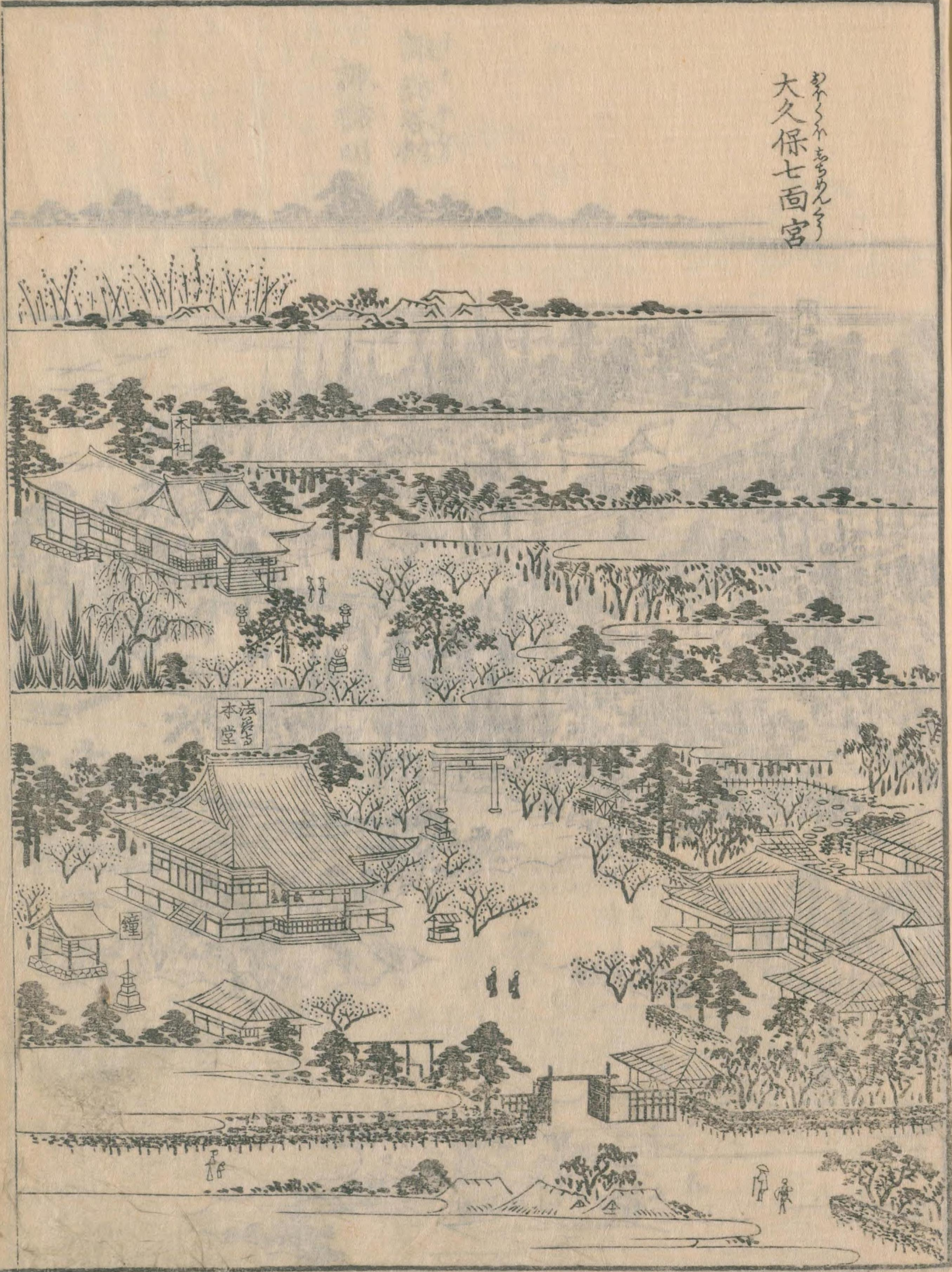


うくかりけれとも其德の至れるにや竟に免許ありけれハ江戸の中八箇の庵室と唱ふるの速く一寺となる青山の海藏寺深川の萬祥寺等いつまても其中なりといへり

一木藥師如来 同境内に安置す旧ハ赤坂一木の地に立せ給ひ行基菩薩創建ありし一寺の本尊なりしとなり今ハ人継と書り

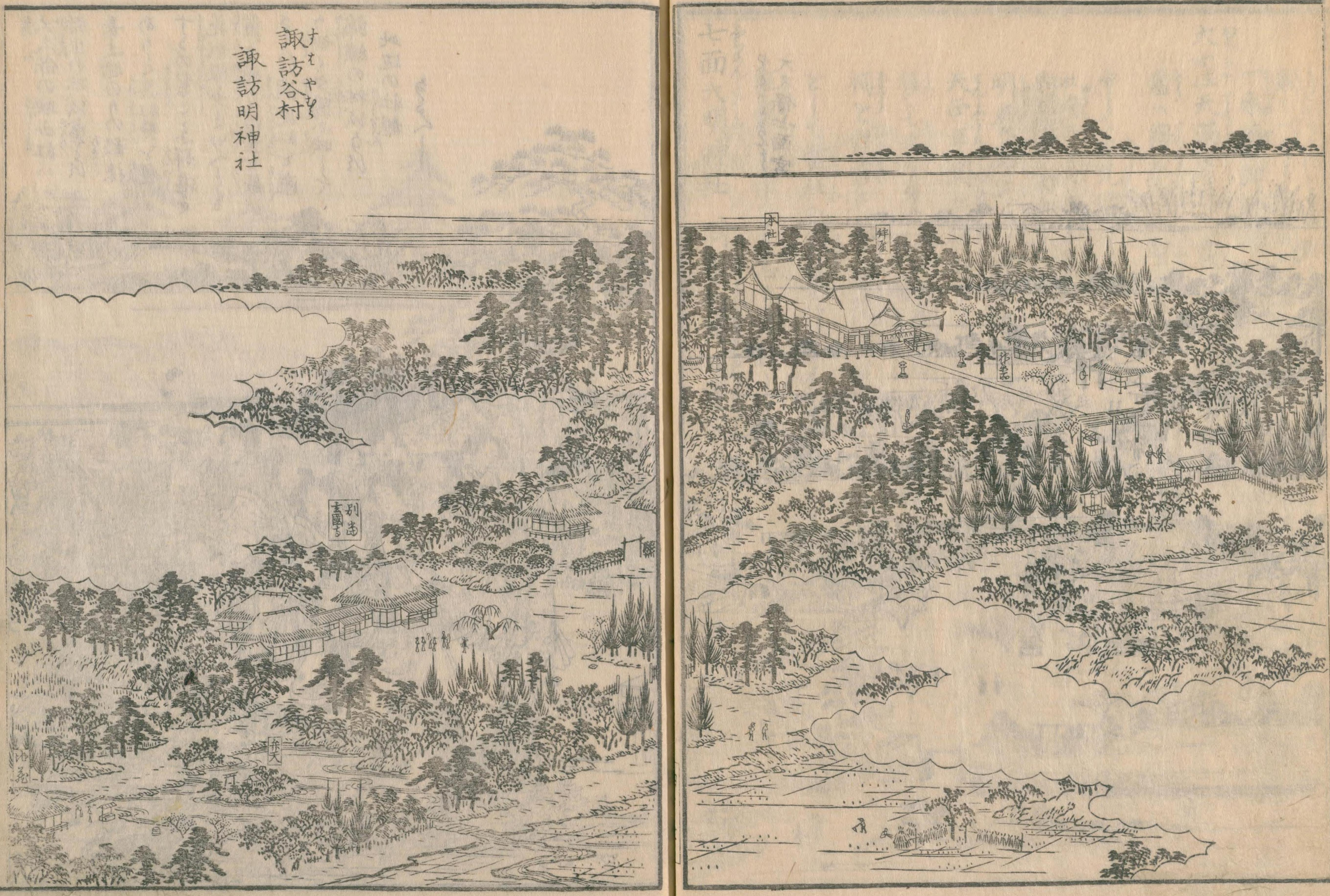
大窪天滿宮 大窪にあり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別當ハ梅松山大聖院と号して聖護院宮の直末本山派の江戸役所中にて大先達たり當社を世に東の天神或ハ西向の天神とも称せり（社壇西に向ふ故に云なるへし東と称する来由詳ならす）相傳ふ安貞年間栂尾明恵上人の勧請にして明慶覚運等是を奉祀し後又太田道灌神田を寄附す然るに天正年間兵燹にかゝりて烏有となりし頃も神躰溪間の櫻の枝に移り止りあり（其木を瑞現櫻と号く今ハ枯たりしといふ）此時青山氏某郷人と共に謀りて祠を經營す聖護院宮道晃法親王東國下向の時大僧都元信をして當社の別當たらしむこゝに於て寝廟漸く備り四時の祭典禮ことゝしく怠る事なし

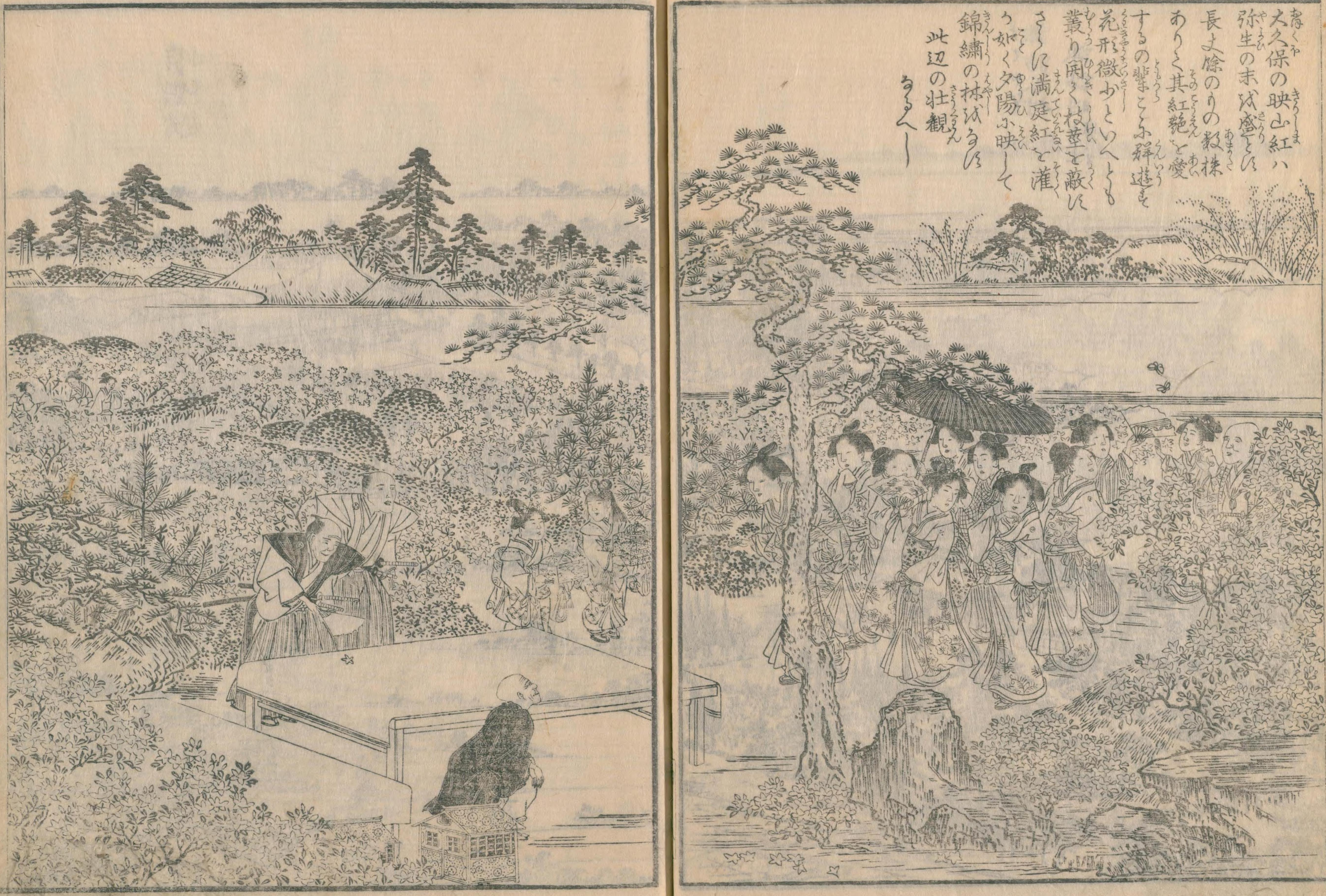
七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭礼ハ


大久保七面宮

諏訪谷村（すはやむら）

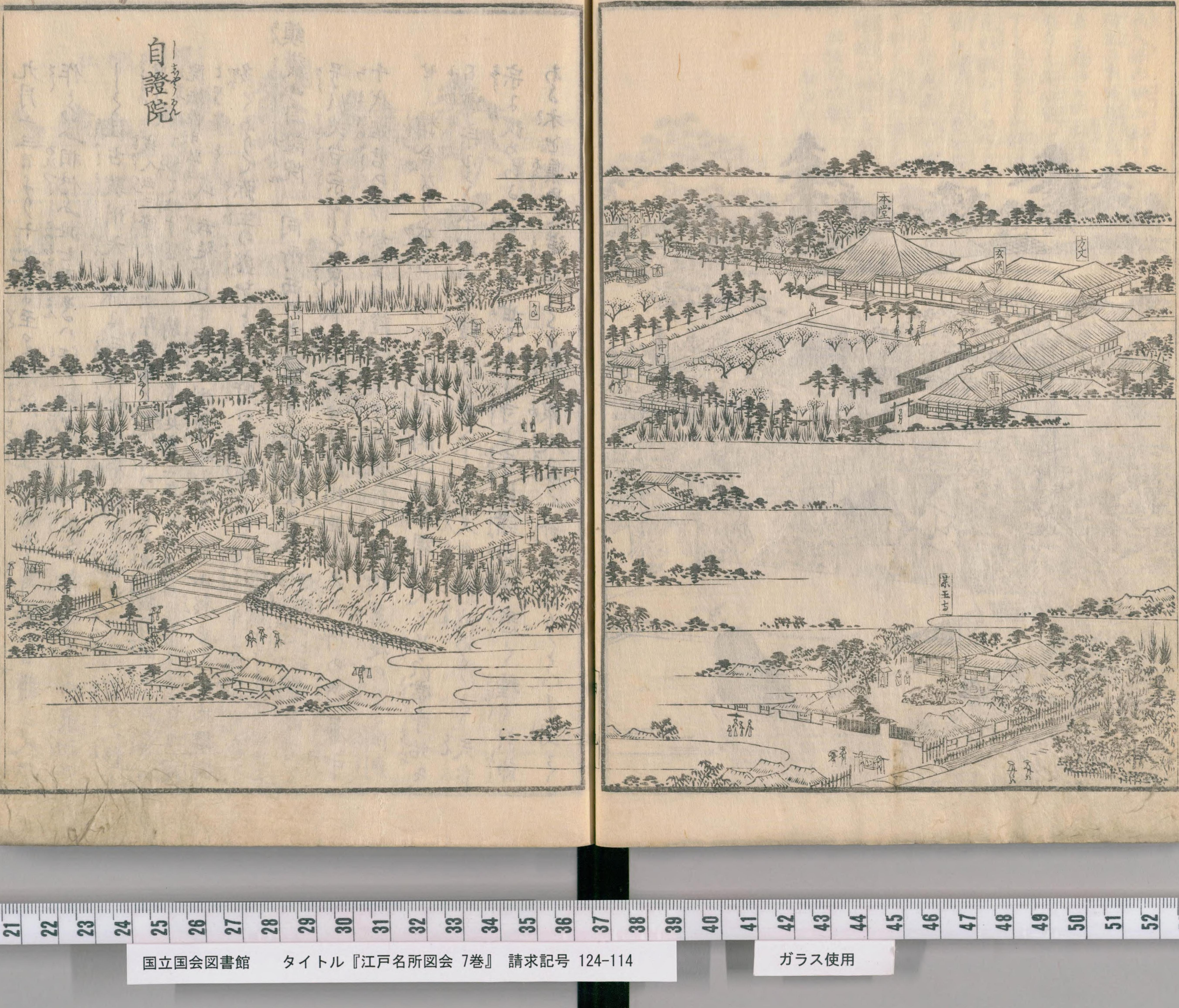
諏訪明神社


本社
拝殿
神楽所
別当 玄國寺
弁天
地蔵



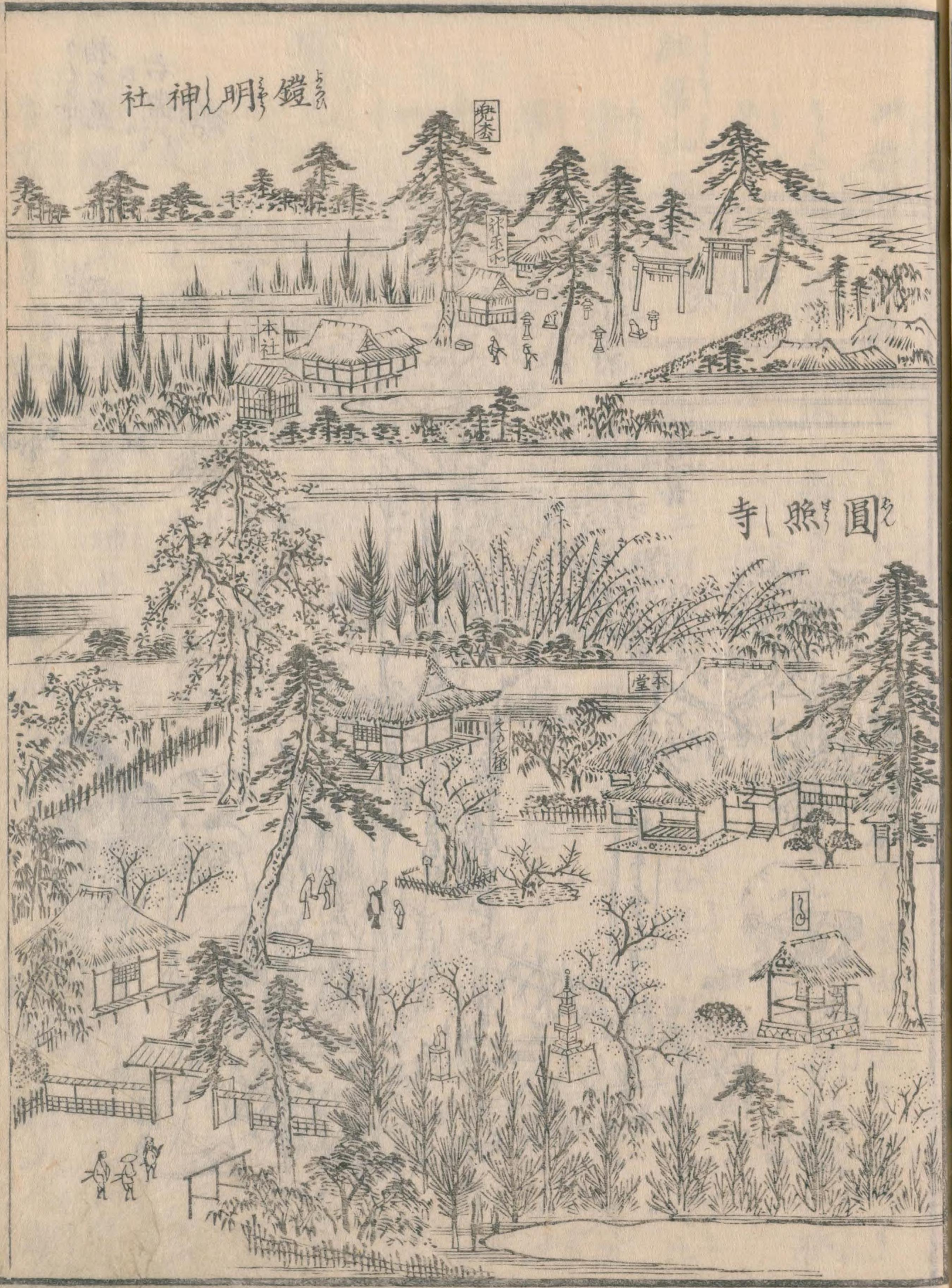
大久保の映山紅ハ
弥生の末に盛とす
長丈餘のもの数株
ありて其紅艶を愛
するの輩こゝに群遊す
花形微少といへども
叢り開く枝葉を蔽ふ
さらに満庭紅を灌
くが如く夕陽に映して
錦繍の林に似たり
此辺の壮観
なるべし

自證院

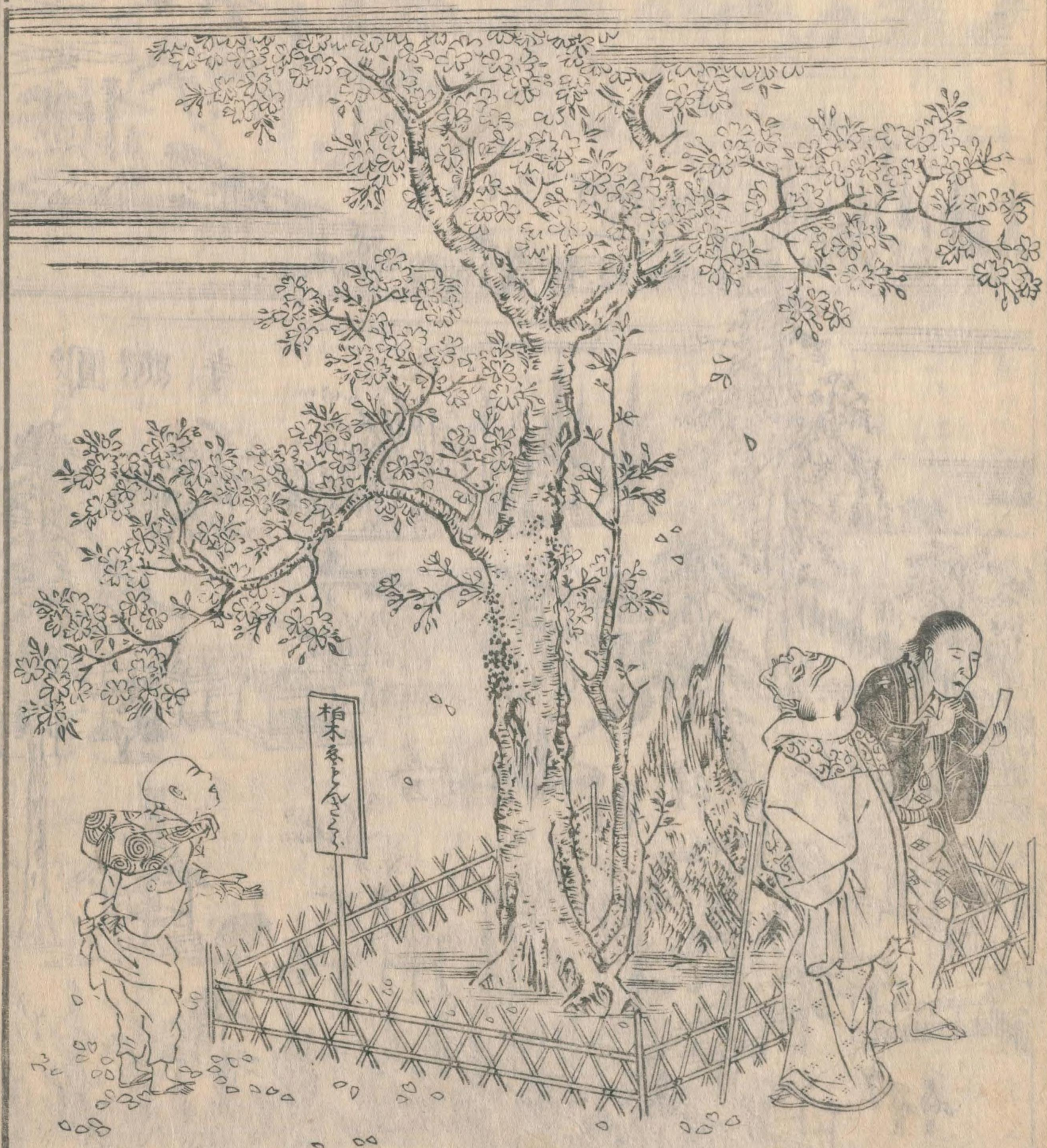

本堂
方丈
玄関
地蔵
中門
庫裡
山王
いなり
總門
寺中
宗玉寺

九月十三日より十九日に至る迄誦経説法等あり尊影ハ日護上人の作といふ相傳ふ此七面堂ハ江戸の地に七面宮を勧請するの最初にして往古駿州大久保に三澤氏某勧請せし萬治年間當寺へ移し奉ると（或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云彼州の人なり後に駿河國富士郡大鹿村に移り住す富士十七騎の一なり延慶二年己酉五月十八日に没せし法号三澤院法性日弘と号すと）或ハ云延寶年間甲州身延山よりこゝに移せしと境内櫻樹多くありて弥生の盛をとて一時の奇観とも（寛文三年より此神前において常経讀誦せしめ永世に絶さらしむ）

鎮護山自證院 同所西の方道より右側にあり（土俗此所を饅頭谷と云）圓融寺と号ス天台宗にして東叡山に属せり尾州亜相光友卿の御簾中千代姫君の御母堂自證院殿光山暁桂大姉御菩提の為に開創せし精舎なり本尊ハ阿弥陀如来開山を日須上人と号ス當寺始ハ日蓮宗にして本理山自證寺と唱へしに元文年間故ありて天台宗に改めらる當寺を世にふし寺と字ス諸堂宇悉く種々の節ある木を集めて造立しけるゆゑに衆人かく奇異なりとす因て



柏木邑右衛門櫻

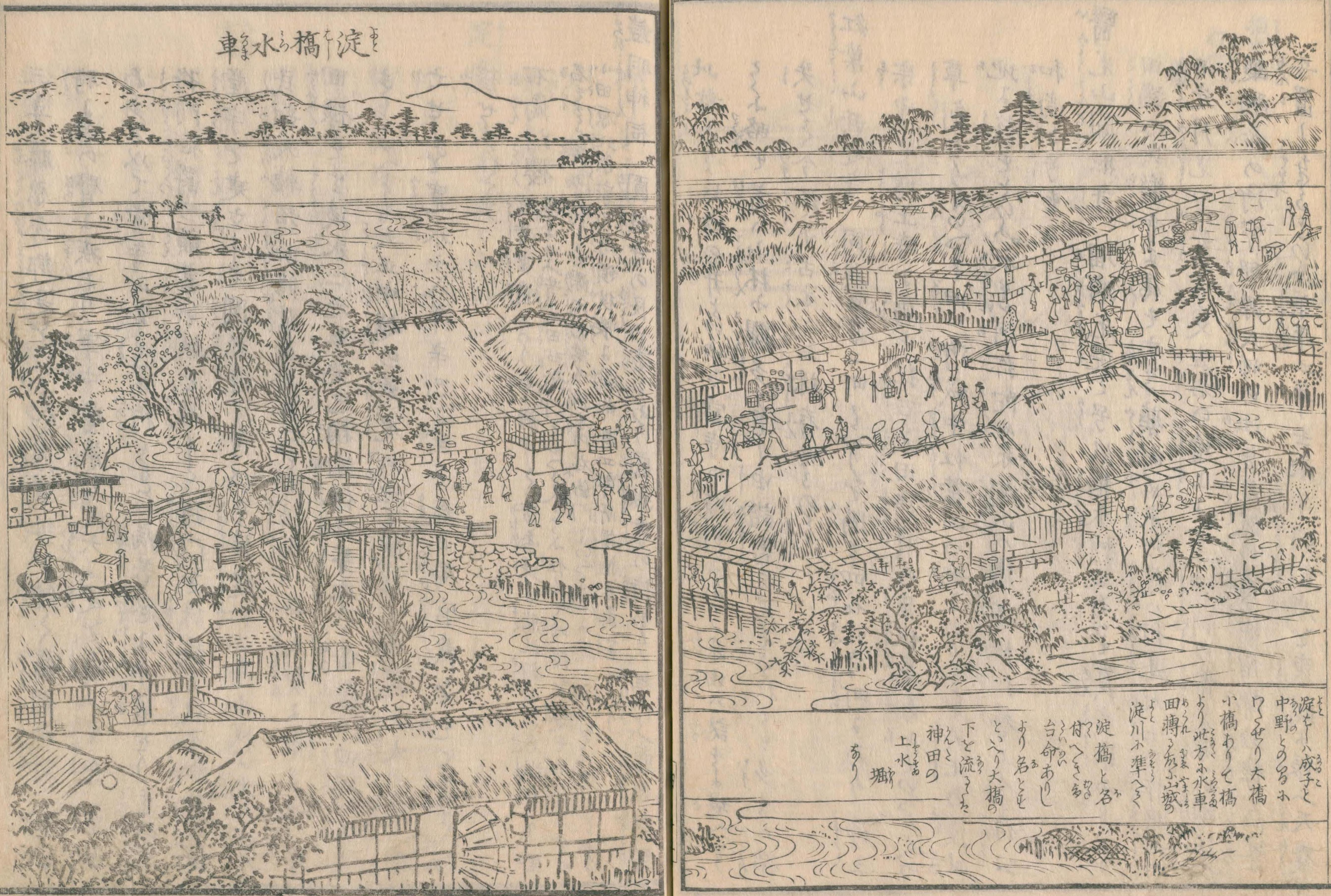


此称あり蜘蛛の井といふも當寺の境内にあり来由ハ誌すに堪へずこゝに略す昔ハ山林にして櫻多かりし由諸書にのせられたれとも多くハ枯失せて今纔に古木二三株存せるのみ

紅葉山西迎寺　同巽の方二町ばかりを隔て四谷北寺町にあり　浄土宗にして増上寺に属せり往古太田持資の臣伏見勘七といへる人の草創なりといへり旧ハ御城中紅葉山の地にありしを天正の後此地に移せりといふ本尊阿弥陀如来開山ハ儀蓮社仁誉上人存公和尚と号せり

醫光山圓照寺　瑠璃光院と号す柏木村にあり真言宗にして田端の與樂寺に属せり本尊薬師如来の像ハ行基大士の作脇士ハ日光月光の二井なり又左右の壇上に十二神将の像を安す相傳ふ醍醐帝の御宇理源大師の法弟筑波の貞崇僧都此像を此地に安置しまゐらすといふ承平二年壬辰平将門威を東関に振ひ天慶

淀橋　水車



淀ハ成子と
中野との間ニ
わたせり大橋
小橋ありて橋
より此方ニ水車
回轉る故ニ山城の
淀川ニ準へて
淀橋と名
付へきよし
台命ありし
より名とせ
といへり大橋の
下を流るゝハ
神田の
上水
堀
あり

三年藤原秀郷是を亡さんか為軍勢を帥て當國中野に至る時に右の臂に疾あり軍中醫薬なく大に是を憂ふ其夜靈示あるを以て當寺の本尊に祈られしに病苦忽に平愈せり其時又将門征罰の願書を献せ果して将門を誅戮す故に凱陣の後堂宇を建立して圓照寺と号し其後建仁二年壬戌に至り江戸民部大輔頼助修営ありしといへり 弘安八年兵燹に罹り佛宇田禄も其後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇を葺覆し旧記を修補ありといへとも天正中越の景虎此地に戦ひし頃復兵火のために廃亡せしを寛永十八年辛巳に至り春日局官裁を乞て重て修復せられたり

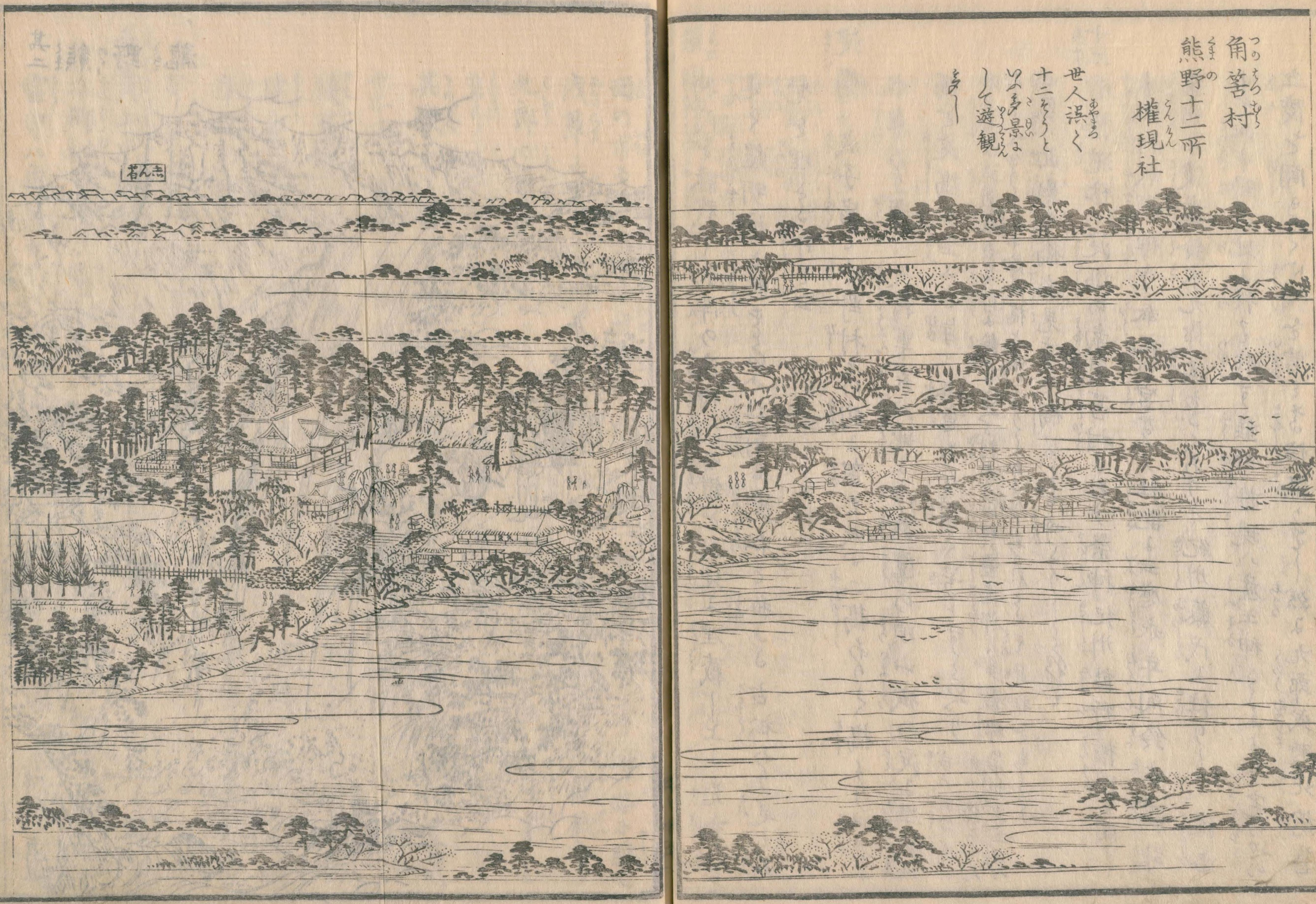
石衛門櫻 當寺堂前にあり單瓣にして芳香殊に勝れ類なき名樹なり里諺に云昔武田石衛門といへる人ここに住んで此櫻を愛す柏木村にありて名ある櫻なりとて源氏物語の柏木の右衛門といへる名に就てかくは呼しとなり
小田原北条家の所領役帳に後部惣四郎所領柏木角筈とあり

鎧明神祠 圓照寺の艮の方にあり圓照寺の持なり 相傳ふ藤原秀郷将門を誅戮し凱陣の後将門の鎧を此地に埋蔵し上に禿倉を建て鎧明神と称せしとなり社前に兜松と称する古松あり是も其兜を埋る印と云

淀橋 成子宿と中野村との間に架す大小二橋ありて橋より此方に水車あり昔 大将軍家此地に御放鷹の頃山城の淀に准擬し此橋を淀橋と唱へき旨 上意あり因て号とすといへり（或人云淀橋ハ餘戸橋なるらん和名抄に武蔵國豊島郡に餘戸とよべる村あり此地ハ豊島郡と多磨郡の中間にて上古のあまりへなりし故に餘戸橋と唱へたりしならんといへれとも其是非をしらず）旧名ハ面影の橋姿見ずの橋なとも呼なりしとも

十二所権現社 淀橋の南角筈村にあり祭神紀州熊野権現に同し本郷村成願禅寺奉祀の宮なり社記に云應永年間鈴木荘司重邦か後裔鈴木九郎某なる人ありて紀州藤代に住りしか流落して此中野の地に移り住す熊野権現ハ産土神なるにより宅の辺の丘陵を闢きて小祠を営みける信深かりし然に九郎或時北總葛

ガラス使用



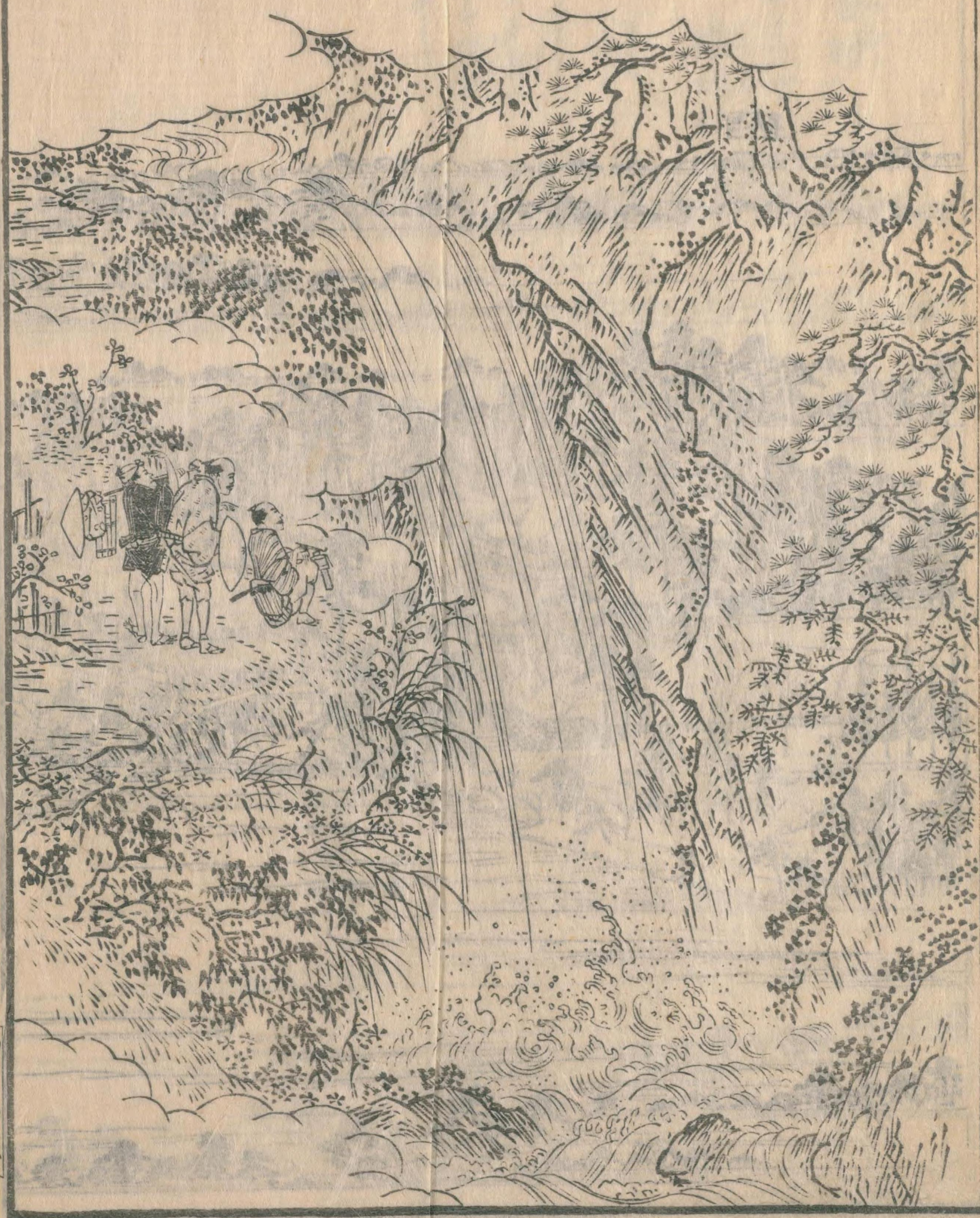
角筈村（つのはずむら）
熊野（くまの）十二所
権現社（ごんげんしゃ）

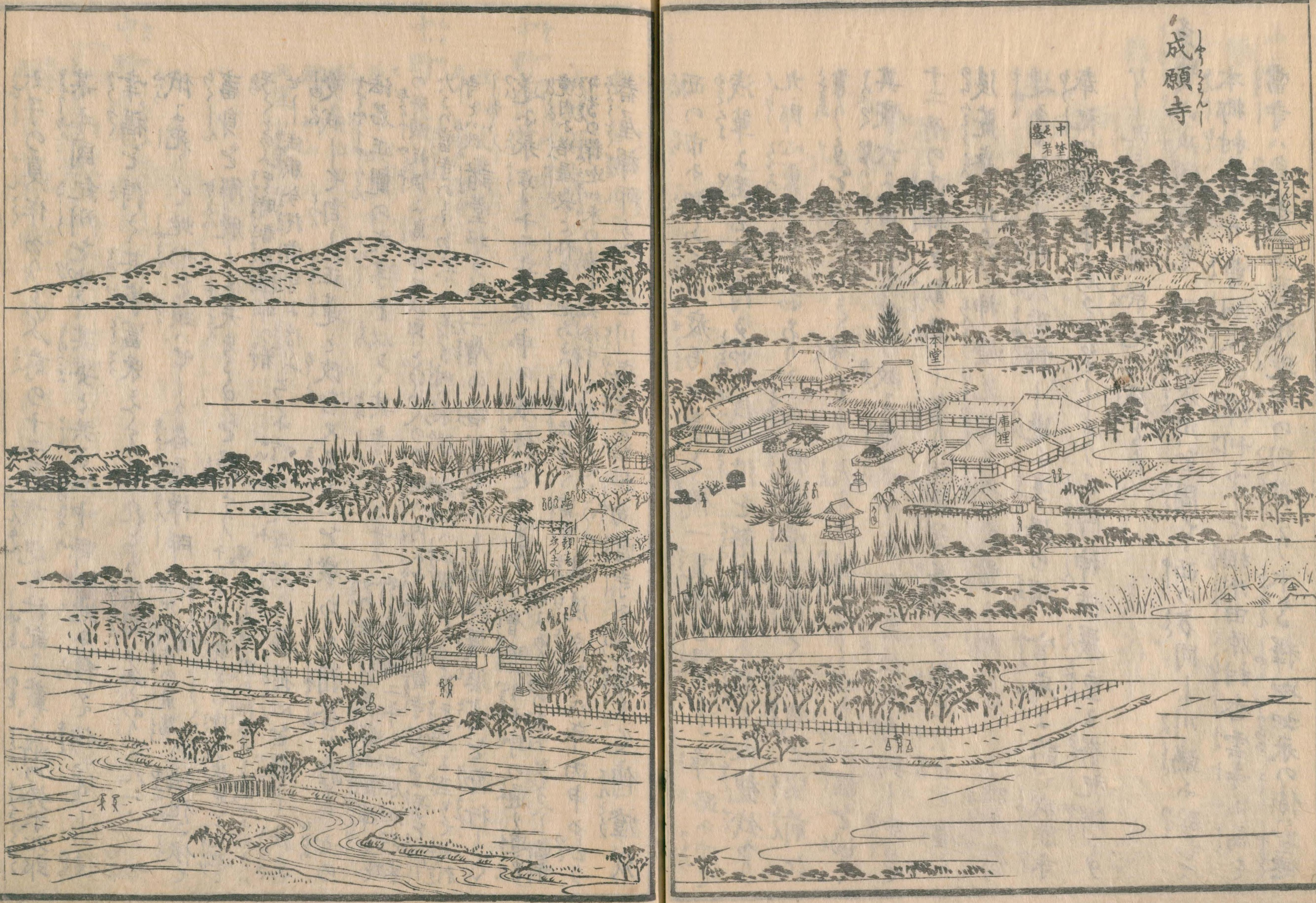
世人誤（あやまつ）く
十二そうと
いふ多景（たけい）にして遊観（ゆうかん）
多し

西の市に飼ふ所の瘦馬を賣て價一貫文を得たる歸路に臨て淺草に至る其得る所の錢の緡を解てことことく大觀錢なり九郎心裏に思ふ所ありて即觀音堂に詣て其錢を宝前に奉り身を空しくして歸りしに夫より後おもはざる幸福を得て其家大に富をなせり故に應永十年癸亥社を再興し更めて十二所の淨神を勸請し奉り田園若干を附も數世を歷て後荒廢におよひ神燈光跡に祭奠常に闕るといへとも猶感應の速なるを以て村民恐怖し遂に享保の頃官府に許て成願寺奉祀の宮とすることありしより已降神供嚴重に祭祀懈らすなし九月廿一日を祭祀の辰とせり

多寶山成願禪寺　同所上水川を隔て西の方同し川端に臨めり本郷村にあり曹洞派の禪刹にして相州田原村香雲寺に屬す當寺ハ角筈十二所權現宮の別當たり本尊釋迦如來の像ハ聖德

其二　熊野の瀧




成願寺（じやうぐわんじ）

中野長者墓
こんひら
本堂
庫裡

太子の真作なりとぞ前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎其本國紀州を出て其妻と共に此中野の地に移り住たりしが後幸福を得て其家富栄えけりされども宿因にやありけん一人の娘俄に死して蛇形を顕はせしが春屋禪師（相州関本の最勝寺に住せらる）の法化に依て畜身を解脱し上天せる事を得たり（十二所権現宮の御手洗池を蛇池と唱ふるも彼蛇の栖なりし故に土俗かくは号くとぞ其時春屋禪師の着せし法服今猶當寺に傳ふ）こゝに於て父母頻に菩提心を発し法喜受戒して自ら正蓮と改む又居宅を壊ちて精舎となし女の法名正観の文字を以て其寺号とす（女の法名を真窓正観禪女と号す永禄二年小田原北条家の所領役帳に島津又次郎といへる人の所領の内に中野内正観寺といへる号を注したるは當寺の事なるべし然る時は永禄の頃迄ハ正観寺と呼び其後に至りて成願寺とハ改）諸堂并ひ三層の塔を造立し生涯優婆塞を勤行して遂に永享十二年庚申の歳終をとげり（三層塔ハ今中野の通り道より右にあり次の條下を見るべし當寺境内に塔屋敷と稱する地あるハ其舊跡なりといふ本尊の釋迦如来の像も其塔中の本尊なりといへり）其後文明八年丙申の冬より春屋禪師より四世川庵宗鼎和尚當寺に董席して傳燈を

挑く法嗣今に連綿たり總門に掲ける多寶山の額本堂に掲る成願禪寺の四字ハ雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓（同し境内叢林の中にあり開基鈴木九郎の墓なり其石塔今崩れて半土中に埋れてあり或一本といへる冊子に武州多摩郡中野の中正觀寺といへる薬師の棟札に朝日長者昌蓮と記してありと云々昌正同音なり同巻高田百八塚の條下と應照してみるべし）

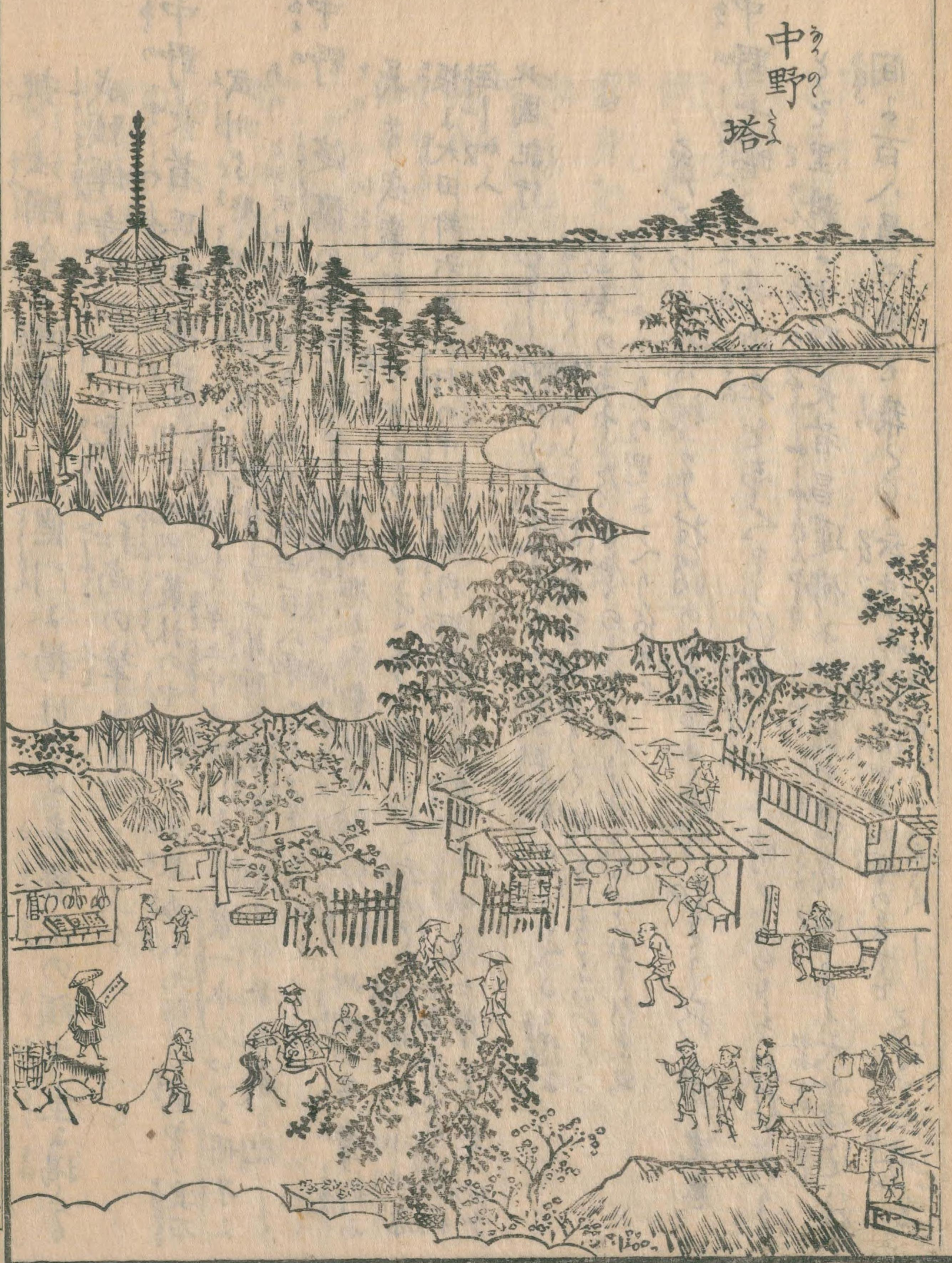
中野 淀橋の西をいふ（淀橋の下を流るゝ上水川を以て豊島郡と多摩郡の郡界とす）此地ハ多摩郡に属す武蔵野の中央なるをもて志か号くと云傳ふ（永禄二年小田原北条家の所領役帳に太田新六郎知行の中に中野内阿佐ヶ谷又中野大場源七郎なとある地を注し加ふ）

北國記行 むさし野のうち中野といへる所に平重俊といへる侍によりて久しく休らへる重き疲を慰め入りて瞻望もまことに心の芝蘭の契なりけり白雲のうかれけるを眺りと共にて文まつやとりの野にうへ侍りて

露はらふ花ハ袖のみ林間の草葉にこのへるむさしのゝ原　堯恵

中野七塔 今其所在を志るへからず或人云三所ありしかと志れてありとぞ里諺に中野長者昌蓮佛に供養の為高田より大窪迄は間に百八員の塚を築くと云傳ふ（次の高田百八塚の條下を應照せらるべし）ゆゑに七塔と

ガラス使用



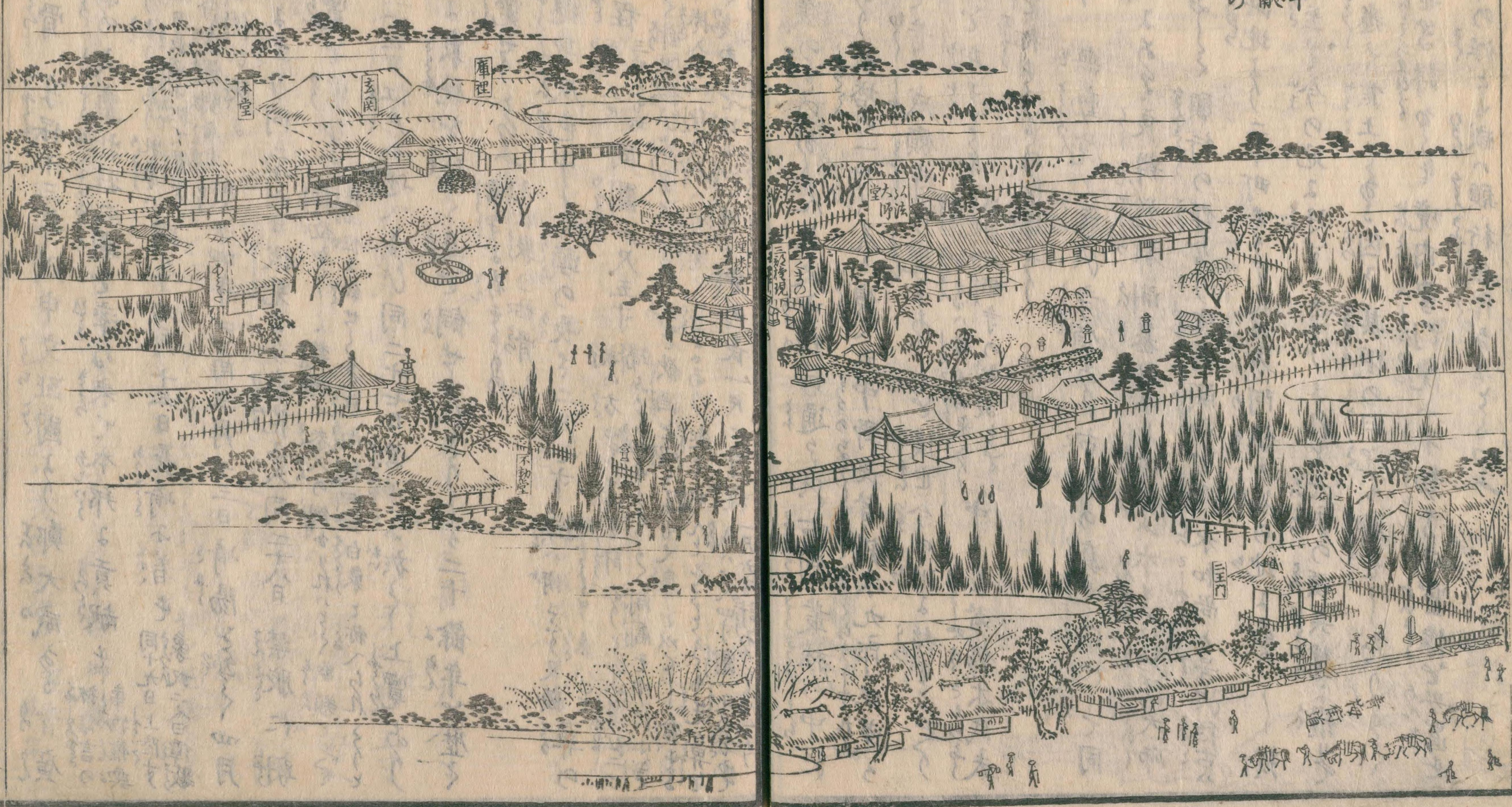
いへると其類のものならん歟又中野の通りより右側叢林の中に三層の塔あり七塔の一なりしと傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮の建る所にして昔ハ成願寺の境にありしを後世今の地に移せしとなり今大日如来を本尊とす（昔の本尊ハ釋迦如来なり後世成願寺の本尊とす）中に長者鈴木氏夫婦の肖像と称するものを安せり

明王山宝仙寺　無動院と号す寺領あり古義の真言宗にして同西の方右側にあり良辨僧都開基なりと云傳ふ本尊ハ弘法大師等身の像にして願行の作なり中興開山を聖永和尚と号す往古ハ大刹にして此地より二十町ばかり北の方阿佐ヶ谷の地にありしを足利の代に至りて今の地に遷すとなりされど大永の頃兵燹に罹りて佛殿僧坊悉く焦土となる因て其頃の旧記も廃亡したりとぞ故に開創の時世等詳ならず境内普門院に不動尊の霊像を安置せ良辨僧都の作とも或ハ願行の作なりともいふ

ガラス使用

中野
寳仙寺

當寺に享保十四年交趾國より貢献せし馴象の枯骨あり


本堂
玄関
庫裡
鐘楼
くまの
弘法大師堂
ゆどの
不動堂
二王門
青梅街道

馴象之枯骨　享保十三年戊申交趾國より鄭大威なる者廣南に産する所の大象牝牡二頭を率ゐ来て本邦に貢献す（林信言の事物権輿にハ大泥國より来るとあり牝象ハ同申年九月十一日長崎に於て斃せり）同年六月十三日長崎に着す（同十九日上陸す象奴二人潭數潭綿譯官二人李錫明廣南陳阿卵等各従ひ来る）翌十四年己酉三月十三日崎陽を出て四月十六日大坂に至り同二十六日伏見より京花に入同二十八日　禁腋に朝しく　天覧を蒙むる（爵位なくして禁闕に参入の例なけれハとて獣類といへとも從四位に叙せられ廣南從四位白象と称へられけりと）又同五月二十五日江戸に迎へなひ同二十七日營中に於て　上覧あり其後中野に象厩を建て是を飼せられしか二十餘年を歴て寛延の頃斃せりといふ（當寺に存するものハ其牡象の枯骨なり）

牡象（七歳）總身灰色にして頭の長さ二尺七寸（頭ハ俯さす又顧廻すること能ハす）鼻の長さハ四尺程（或ハ三尺三寸とも云）同圍一尺五寸（末の方細くして六寸許ありといふ鼻孔二つ端ふくらかに凹にしてよく闘も中に小き肉爪ありてよく針を拾ひ芥子をつまむ水を飲酒を吸ふにも又鼻を以てし食する時も鼻を以て捲入る一身の力ハ皆悉く鼻にあり起て行んとするときも先鼻を以て地を柱へて後あしを延ぶうれて地を去ること遠く常にハかくれてあり）口ハ頤に牙の長一尺二寸程（或ハ一尺四寸圍ハ元の方にて一尺六寸許ありといへり）眼の長さ三寸（或ハ一寸五分形ハ篠の葉の如と云）耳の幅八寸餘（或ハ一尺三寸とも形ハ蝙蝠の翅又銀杏葉の形に似たりともいふ）胴の長さ七尺四寸同圍一丈背の高さ五尺（或ハ五尺七寸）足の長さ二尺二寸同圍一尺五寸（或三尺五寸圍二尺五寸ともいへり足の形ハ圓柱のことく指なく爪ハ五枚ありて栗の形に似たりといふ惣身ゆるくたるみ擁腫すれとも峻嶺にのほり羊腸を下るに電のことく深き水を渉る事捷く其性能人に馴て主意を解す故に象奴たる者其頭に跨て鉄鈎を以て釣進退曲折左右すといふ）尾の長さ三尺三寸（或ハ二尺七八寸とも形牛尾に似たりとあり）

牝象（五歳）總身灰色にして頭の長さ二尺五寸鼻の長さ二尺八寸胴の長五尺斗同圍八尺六寸背の高さ四尺七寸（或ハ四尺ありと）牙の長さ五寸程ありて其餘ハ牡象に等しといへり（此牝象ハ長崎にありし頃斃しけり江戸へ来りしハ牡象のミなり）

飼料　一日の間に新菜二百斤　篠の葉百五十斤　青草百斤　芭蕉二株根を省く　大唐米八升　其内四升程ハ粥に焚て冷し置て是を飼　湯水一度に（二斗計）あたふ　饅頭五十　橙五十　九年母三十　又折節大豆を煮冷して飼ふ事あり　青草の中にも殊に俗間角力取草と称するものを好みて食ふ　青草なき折ハ籾を莖穗ともに飼或ハ藁大根のるいをも食するなり又好んで酒を飲といへり

時しあれハひとの國なるけたものもけふ九重にみるかうれしき　御製

甘露集

めつらしく都にきさの唐やまとすきし野山ハ幾千里なる　靈元法皇

情しるきみのこゝろよかはる人にわすれぬ山川とのみふかれなそ　同

これもまた此時なりとかきつめてこそむかしきみの君とことに家　同

不昧直院集
此園にさくはるやまつくやはるにことにひさるまつの緑つけて　光栄

代ゝの春をかさぬる数のまつかえし宮をそむるもゆかん代ゝとて　同

芳雲集
たへしても民のなりはひそなへくハ豊なる世のきさしとそなる　実蔭

いさやまたとしなほしられ身ましかるきさゝやまゆつの花にはさても　同

民をたにたゞけくきみのたつぬさへハとかわらんよそやもろ為へき　同

家集
此花をゝるゝ人のやみあるまてもと洞にのこるさきらん　通躬

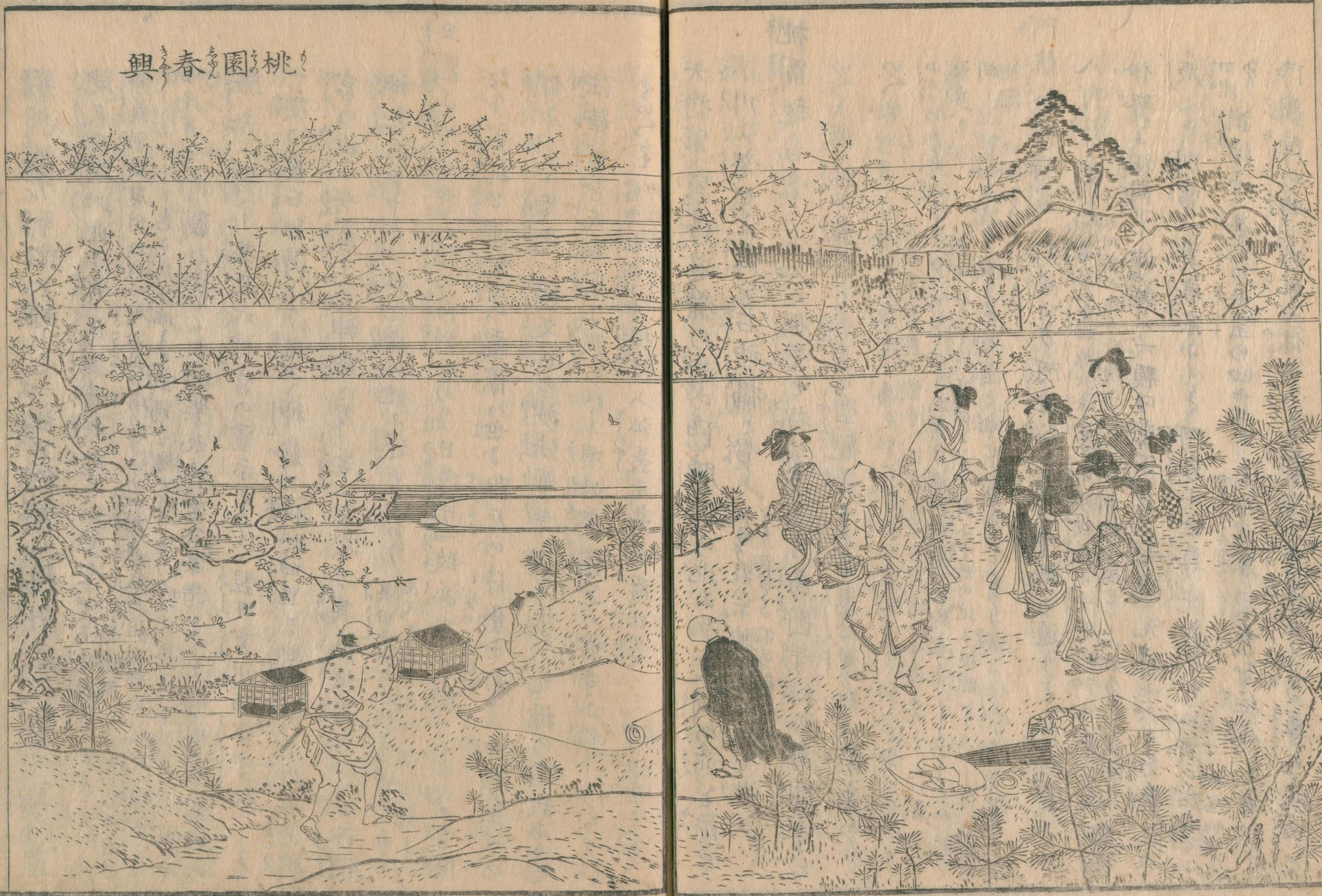
おのかさむ雪を千里もそれよりあまくきみのこゝろを花に　公福

花をきくしまをいさらひのなるの谷もうつし法なりてるもめつし　為久

桃園 同所西北の方十町ばかりを隔つ享保の頃此辺の田畝に悉く桃樹を栽しめ給ひ其頃　台命によりて此地を桃園と呼ばせ給ひしとなり今も弥生の頃紅白色をまじへて一時の奇観たり此地に大将軍家御遊猟の時の御腰掛の地なりとぞ又岡の前を流るゝ小川に架せる橋を石神橋と唱ふ（此流れハ石神の三宝寺の池より発せる所の余流なり）

桃園観音堂 土人ハ桃堂と称せり同所高圓寺村の高圓寺とよべる禅林に安置せり本尊ハ聖観音にして恵心僧都の彫像なりとぞ（当寺ハ中野の成願寺に属せり弘治年間の草創にして開山を建室和尚と号く　むかしハ　大将軍家度々当寺へ立寄らせ給ひ仮の御殿ありしかば当寺の山号を御殿山とも唱へ侍るとなり又当寺境内其頃ハ桃樹多かりしにより桃園と称すべき旨　台命あり其後享保にいたり新に中野の地に桃園をうつしたまひ田圃の間にも桃樹を多く栽しめ桃園と命ぜられたりとなり故に土人ハ当寺をさして桃園の旧地なりといへり）

阿佐谷神明宮 同西の方阿佐谷にあり中野の通りよりまた右へ入る事十八町許なり（阿佐谷ハ小田原北条家の所領役帳に中野内阿佐谷とあり　太田新六郎の所領にして昔ハ中野に属せし小名なりしと知れし）祭神伊勢に相同じ神躰ハ一顆の霊石なり毎歳九月十六日を祭祀の辰とせり別当ハ真言宗にして阿谷山世尊院と号せり（中野の宝仙寺に属す則宝仙寺の旧地なり）相伝ふ景行天皇の四十四年日本武尊東夷を征伐しおはりて御凱陣の時この地に休らひたまひしが其後土人等尊の武功を



桃園春興

慕ひ奉りて其地を封して一社を経営し神明宮を勧請す然るに建久の頃此地の農民横井兵部といへる人（此人の遠裔今も此地に住して子孫連綿たりといふ昔源頼義朝臣奥州征伐の時此地に至りたまふに此横井氏の祖兵部といふ者随兵に加はりしか急に病に臨みて戦場に趣くことあたはずこゝに止り終に農民となる由緒家に伝ふと云）祈願あるにより伊勢太神宮へ参詣せんと勢州能保野の驛舎に宿す其夜太神宮の靈示ありて翌日宮川の水中にして一顆の靈石を得たり依て神意に任せ旧里に携へ帰り件の神明宮の社に安置して神躰となし奉るといへり其後祇海といへる沙門神告あるによりて社を今の地に遷すとあり（其旧地は七八町東の方にあり土人これを元伊勢と称す）

日圓山妙法寺　堀の内村にあり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院なり宗祖日蓮大士の靈像は世に除厄の浄影と称す日朗上人の作にして其先は碑文谷の妙法華寺にありしを元禄の頃故ありて法華寺を天台宗に改められし頃此靈像をは當寺に移しまゐらせしといへり（當寺住侶日性師の代なり）相傳ふ弘長元年辛酉日蓮上人（四十歳）伊豆の伊東へ配流せらるる日朗師随身して其地に至らんとすれと此事協はす依て其時上人の命によりて日朗師は鎌倉由井の濱に止まり日夜師の赦免を祈請す或夕同しく海上にして一箇の靈木を感得し日蓮上人の真像を手刻し常に仕へて怠らす（此浄影は宗祖大師の諸天像を造るの権輿なり）感應の時至りてや弘長三年癸亥五月赦免ありて日蓮上人鎌倉に還りたまふ其頃此尊像を見て感悦ましまし我心神今より此木像にうつりとゞまりて永く来際に至る迄救護衆生の利益無窮ならん我既に四十二歳にして救を得しかは此木像に除厄の号を称すへしとて自ら點眼なしたまふとなり

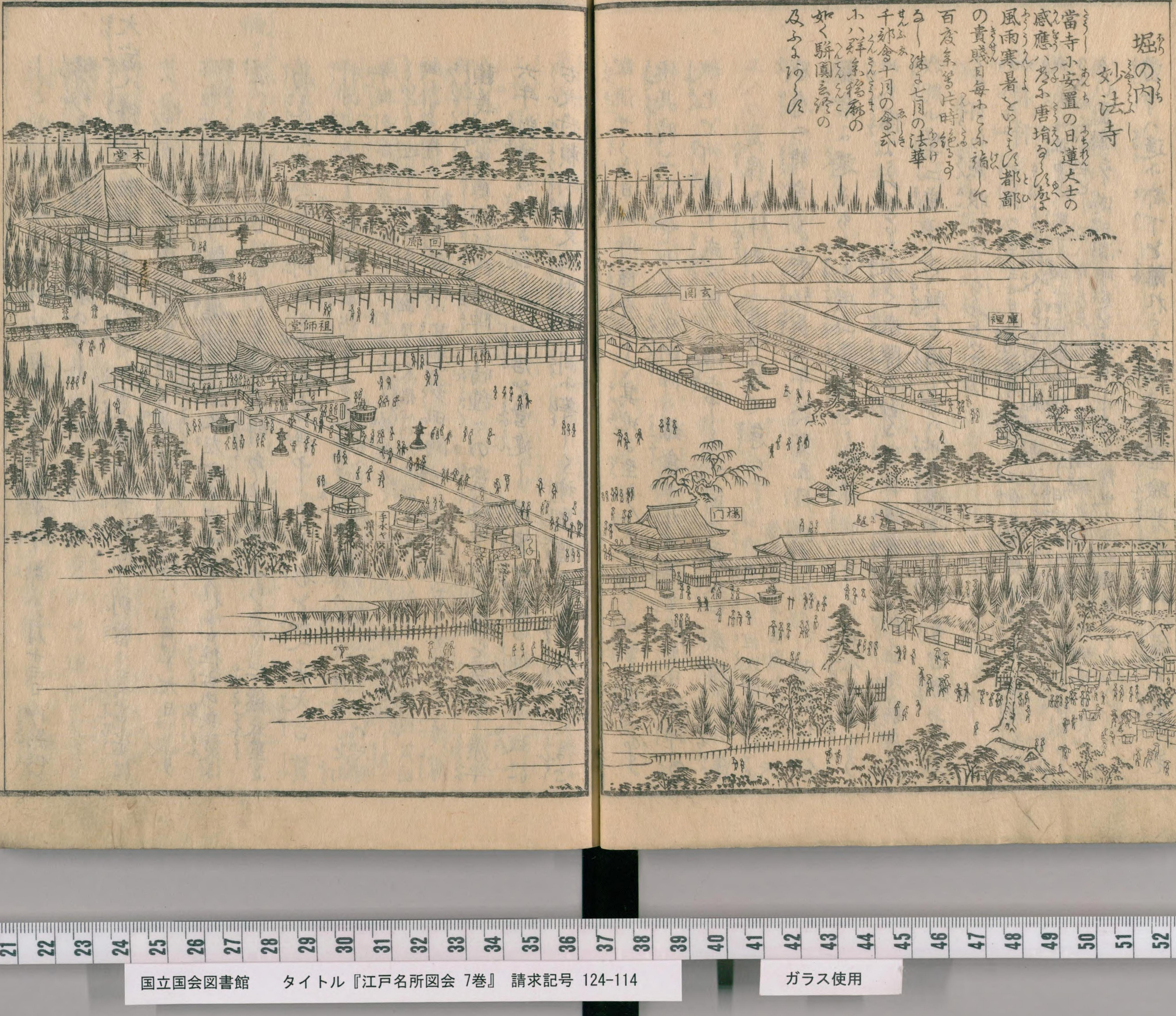
加持符　（有信の輩三七日の間此符に對し正念に唱題誦経すれは寄願成就すること諸人これを受る病を患ふるものは其病床のあたり壁上或は家の柱なとへ貼す故に世俗張符といへり相傳ふ日蓮上人伊豆の伊東なる配所に在せし比八郎左衛門といへるもの難病を患ふに依て此妙符を授与したまひ靈應あり後日朗師是を傳へしより已降世々に相承するといへり）

當寺は遙に都下を離れたりといへとも靈驗著き故に諸人遠を厭はすして

ガラス使用

堀の内
妙法寺

當寺に安置の日蓮大士の感應ハ殊に廣遠なるか故に風雨寒暑をいとハす都鄙の貴賤日毎にこゝに詣して百度參り片時絶る事なし殊に七月の法華千部會十月の會式には群參稲麻の如く騈闐言語の及ふ所にあらす

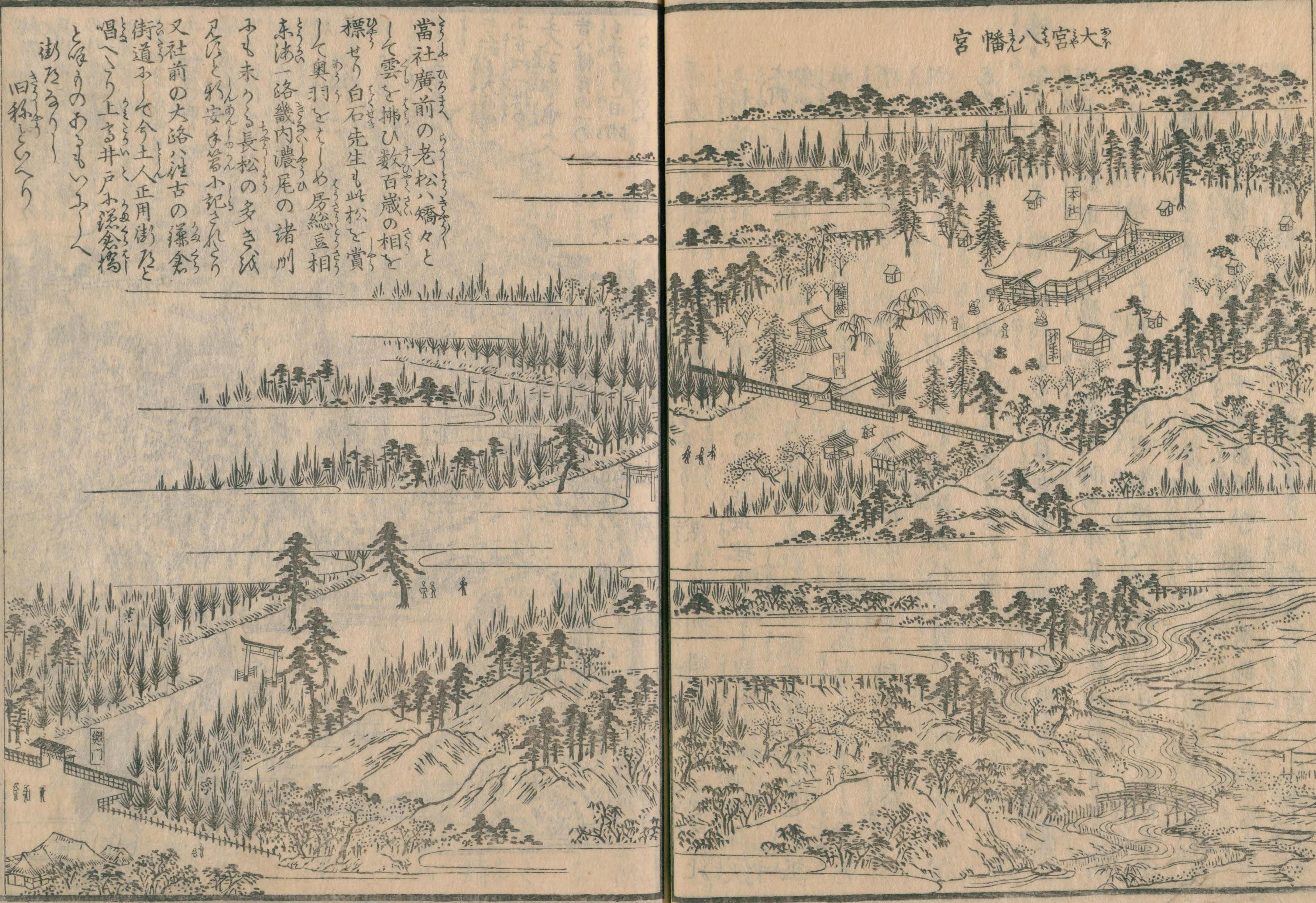

本堂
回廊
祖師堂
手水や
玄関
庫裡
樓門

して歩行を運び渇仰す毎年七月法華千部十月十三日御影供を修行す其間群參稻麻のごとし

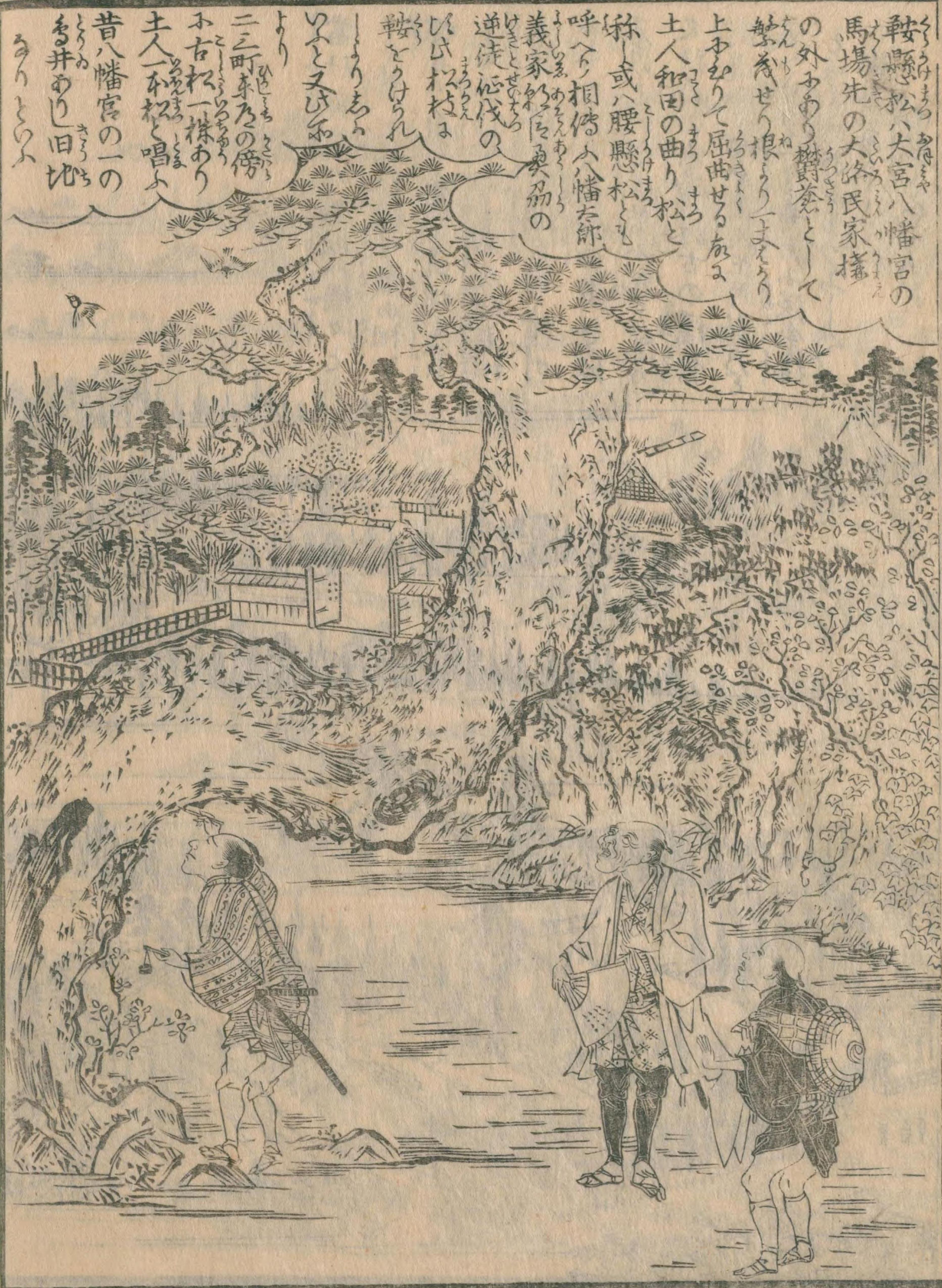
大宮八幡宮　和田村にあり故に和田八幡宮共称せり別當ハ眞言宗にして幡降山大宮寺と号く（昔ハ中野の宝仙寺奉祠しけるとなり）例祭ハ九月十九日とす（二十一日迄三日の間市立て賑へり）神躰　應神天皇又左右に二神あれとも往古の兵燹に羅ありて舊記亡ひたりとそ神名詳ならす疑ふらくハ仁德天皇と高良臣なるへきか何れも靈妙奇異にして文彩を加へす大古質朴の風ありて彫刻最巧なり（いつの頃にや元禄の末より神廚子を釘おそれて拝まつる者あらさりしを天明年間別當祐照法印一七日行法ありて後愼んでこれを開き神像を拝しまつるといへり近年建部氏昌盈なる人信心の人に施しあまねくせんとて自ら神影を版図画しまつる梓にちりはめたり）相傳當社ハ其先多田滿仲の勸請なりといへり後源賴義朝臣奥州征伐出陣の時種々の靈瑞ありて神像を感得し康平六年凱陣の時よりあらたに宮居を營建し源家守護の神とす故に右大將賴朝卿又相州鶴が岡に等しく神殿僧坊を重修ありて信心最厚し（昔ハ大社にして壯麗なる宮居なりしゆへ地名とも大宮と呼來るとなり）然るに足利將軍の世越後の上杉相模の北条と戰ふ頃上杉の勢兵此地に屯し放火を（此時神像ハ火を焰を出て山中の大樹の下に遁れ給ふを別當真順法印袈裟に移しまつる故に恙なしとなり）こゝに於て社領ハ賊の爲に掠られ神巫社僧も四方へ分散しされハ神躰のミ纔に叢祠に安しまりしに天正の頃大石信濃守當社の古きを尋ね神宮を建る同十九年叅も大神君此地に台駕をめくらされ源家累代守護の靈神なることをしろしめされ新に神領を附しまへりといへり

幡ケ谷不動明王　幡ケ谷村にあり真言宗光明山荘嚴寺に安置す本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同十八日迄内拜せしむ相傳ふ往古智證大師江州三井寺を創建の時彫刻の靈像なりといへり天慶年間平將門東國に在て逆威を震ひ帝を惱しまつる故に平貞盛及ひ藤原秀郷等追討の宣旨を蒙り東國に發向す其時三井寺より此本尊を奉持して陣中に

大宮八幡宮



當社廣前の老松ハ矯々と
して雲を拂ひ數百歳の相を
標せり白石先生も此松を賞
して奥羽をはしめ房総豆相
東海一路畿内濃尾の諸州
にも未かゝる長松の多きを
見ずと新安手簡に記されたり
又社前の大路ハ往古の鎌倉
街道にして今土人正用街道と
唱へり上高井戸に鎌倉橋
と呼ぶのあるもいにしへ
街道なりし
旧称といへり

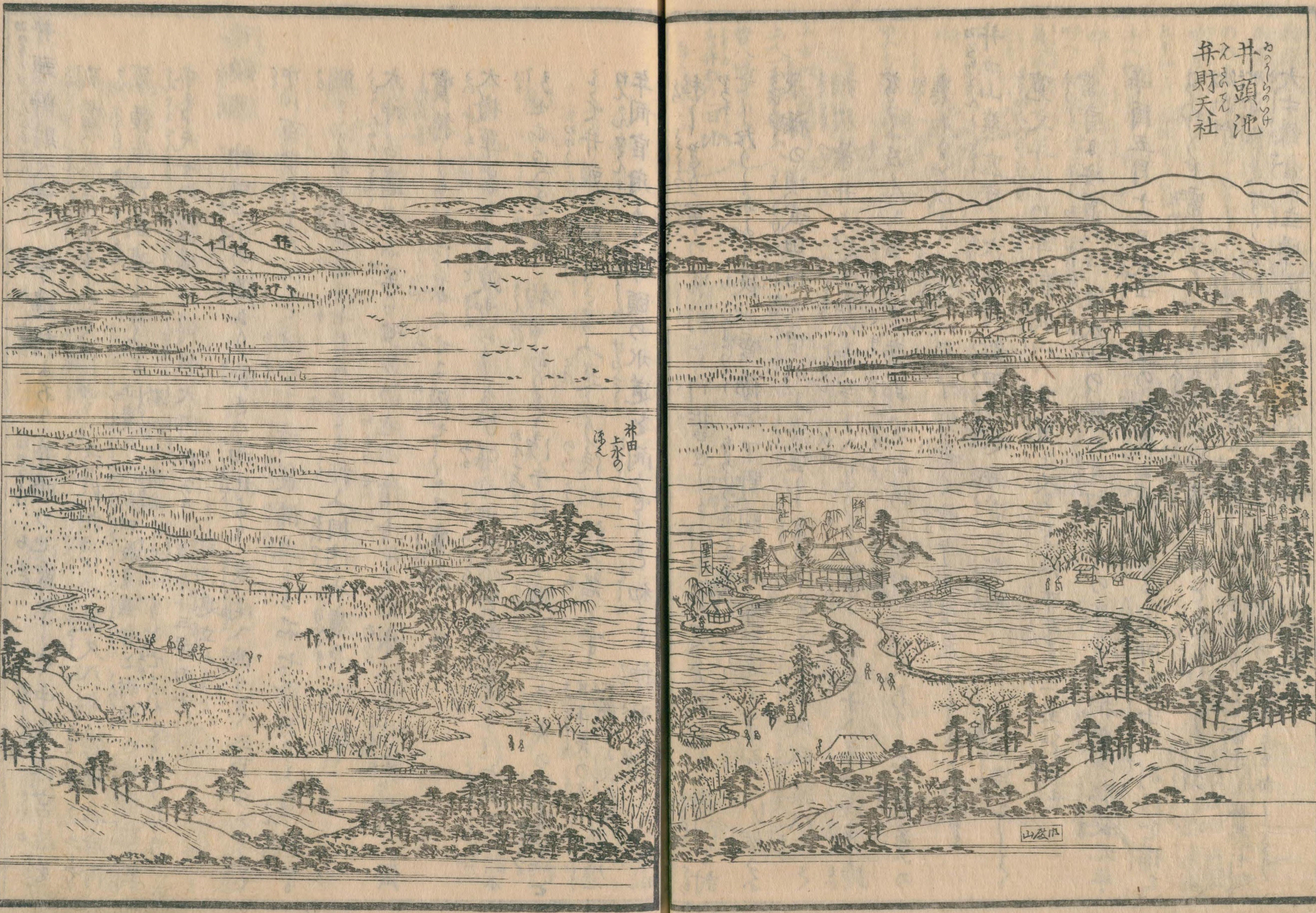


鞍懸松は大宮八幡宮の馬場先の大路民家墻の外にあり欝蒼として繁茂せり根より一丈あまり上にありて屈曲せる故に土人和田の曲り松と称し或は腰懸松とも呼べり相傳ふ八幡太郎義家朝臣奥羽の逆徒征伐の砌此松枝に鞍をかけられしよりかくいふと又此所より二三町東の傍に古松一株あり土人一本松と唱ふ昔八幡宮の一の鳥居ありし旧地なりといふ

移しまつり軍の勝利を祈誓せしむ同三年庚子果して将門を討亡したりしにより後此霊像を下野國小山郷へ遷しまゐらす然るに永禄の頃武田信玄甲州に安座しまゐりしを又北条氏政奪ひ取て相州築井といへる所の寺院に入まゐりしを竟に天正十八年四海安靖なるに及んで當國多磨郡宅部の三光院に傳へありしを霊夢の應あるを以て延享四年丁卯永く當寺に安置しまゐるといへり

井口山慈宏寺　大宮前新田川越海道の右側にあり日蓮宗にして寛文年中の草創開山は日賢上人と号す本尊に三宝を安ず當寺に安置の日蓮大士の像は日朗上人の作なり相傳ふ弘長元年辛酉五月十二日大士伊豆の伊東に謫せらる朗師大士の別れを惜みまゐらせ霊木を得て大士の影像二軀を彫刻あり一躰は座像にして始め碑文谷の法華寺にありしが後堀の内妙法寺に安置す其二は立像にして當寺に安置す即此霊像是なり旅行の躰相あるゆゑに世に光明木旅立の御影とも称しまゐらす大士鎌倉へ立帰りたまひての後點眼ありしといへり

ガラス使用


井頭池（ゐのかしらのいけ）
弁財天社（べんざいてんしゃ）

神田上水の源
本社
拝殿
聖天

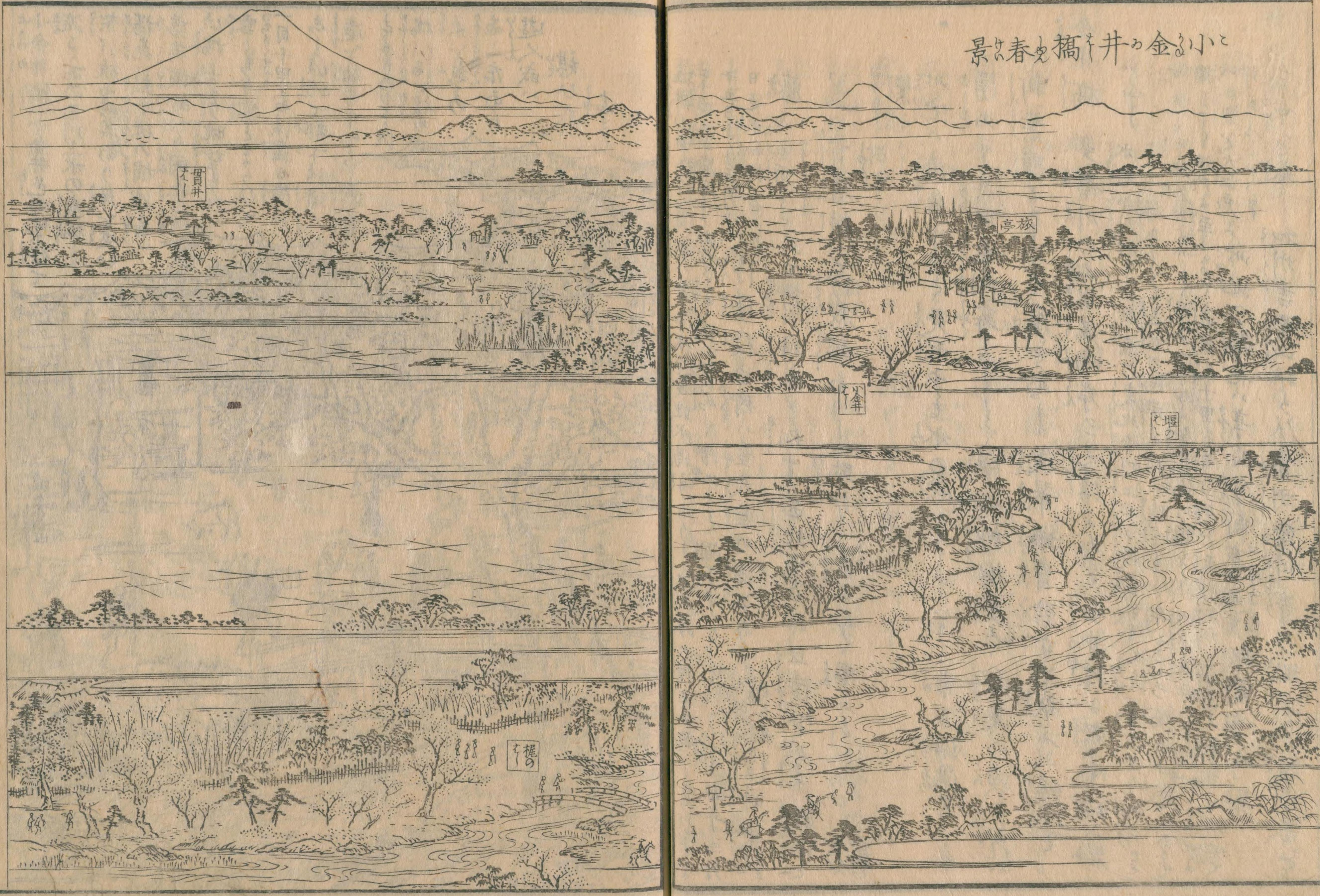
井頭辨財天宮　牟禮村にあり井頭の池靈にして中島に宮居を別當ハ天台宗にして大盛寺と号す相傳ふ建久八年鎌倉右府将軍頼朝卿創建しありて（正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に勝利を祈念し北条家を亡されしよりとなり）本尊天女の靈像ハ傳教大師作なり（寛永十三年丙子社頭建立あり）

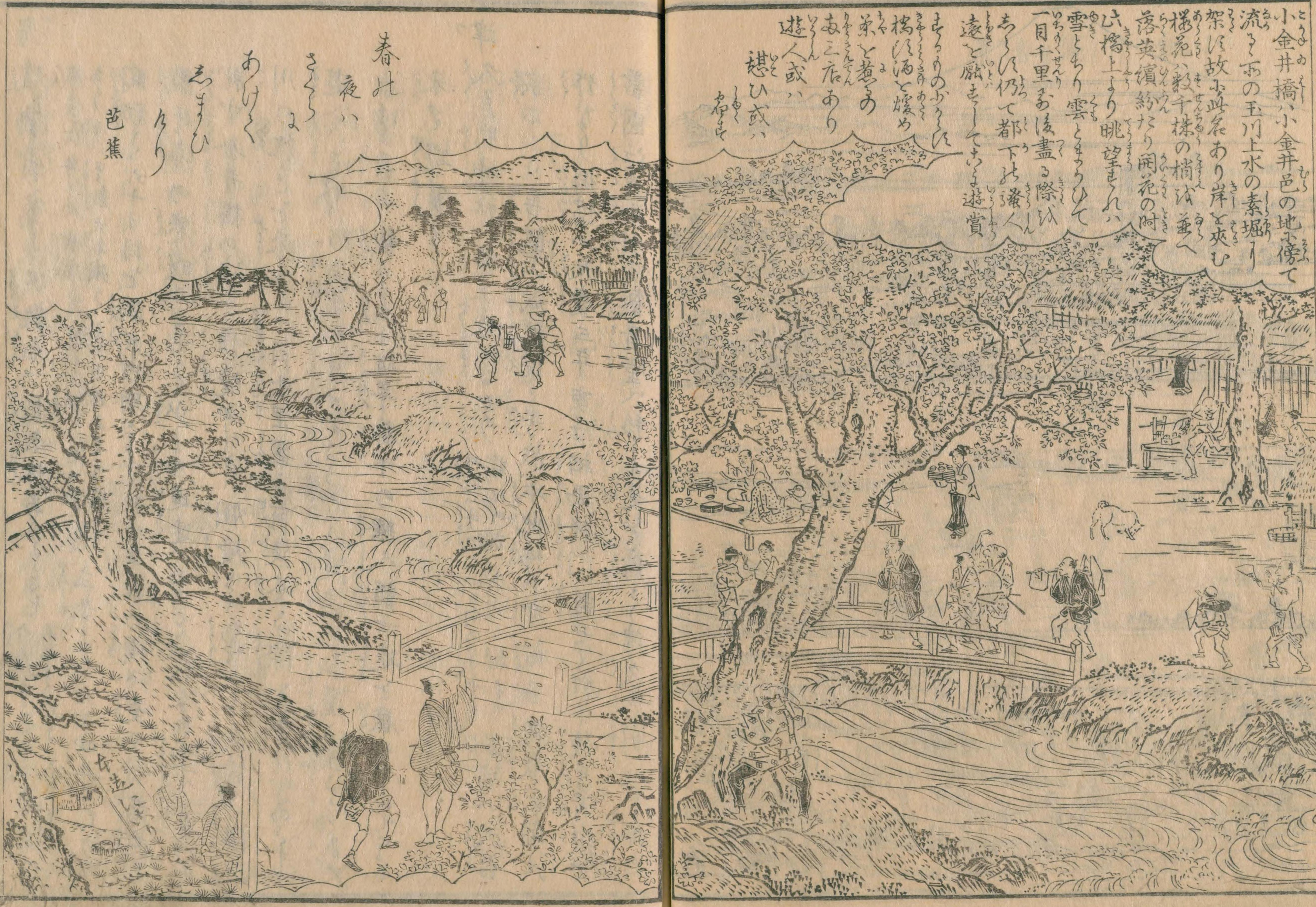
井頭池　神田上水の源なり長さハ西北より東南へ曲りて三百歩ばかり巾ハ百歩ばかりもあり池中に清泉涌出する所七所ありて旱魃にも涸る事なし故に世に七井の池とも称ふ相傳ふ慶長十一年大神君適こゝに至らせたまひ池水清冷にして味ひの甘美なるを賞揚しあまひ御茶の水に汲せらる又寛永六年大将軍家こゝに渡御なしたまひ深く此池水を愛させられ大城の御許に引せらるべき旨鈞命ありて御手自池の傍なる辛夷の樹に御小柄をもて井頭と彫付させたまふ是より後此池の名とす（其辛夷の木ハ大盛寺に収蔵せり）承應年間官府より井頭の水道を開かせられ初て神田に引したまふ（故に神田上水の称あり寛永八年辛未の夏池水渇する事ありしを天海大僧正加持しあまひしかば其頃靈感のしるしありて其後ハ旧のごとく湧出して涸る事なしといへり今も毎年三月十五日より四月十五日迄水加持あり）御楊枝の柳ハ聖天堂の後にあり腰掛の臥竜れ（柳と称す）藤（今在所さくうやゝす）三ツ柳ハ神木と称す西北の方れ丘陵を今御殿山といふハ昔省耕の御殿館ありし跡なるが故にかく唱ふるといへり（今ハ官林と）樹木繁生す

此池ハ清泉にして炎天といへども水の減ずる事なし常に泌沸として湧出す其地最閑寂にして池辺柳樹多く初夏の頃に至れバ新葉鬱々として陰をなし浅翠嬌青碧空を蔽ふに似たり

金井橋　多磨川の上水堀両岸の芝塘にあり金井村に架す故に名とす（水源小川村より新橋の東北千川上水の掛口の所まで凡一里あまり両岸をことく櫻をうゑて左右の両岸九村に跨るまで架する所の橋大小七十所ありて何れも其地名によりて唱ふといへる金井橋の類なり此水流西の方羽村より北に播迄とく江戸に至るまで直流凡十里あまり是を玉川上水と号す承應の頃始て此水流を大江戸に引かるといへり）此地の櫻花ハ享保年間（或云元文二年丁巳）郡官川崎某台命を奉し和州吉野山および常州櫻川等の地より櫻の苗を

小金井橋春景


旅亭
小金井村
堰の村
貫井村
梶の村



小金井橋ハ小金井邑の地ニ傍て
流るゝ所の玉川上水の素堀り
架す故ニ此名あり岸を夾む
桜花ハ数千株の樹ゝ並へ
落英繽紛たり開花の時
ハ橋上より眺望すれハ
雪とも雲ともまかひて
一目千里を後盡る際ハ
なし仍て都下の騒人
遠を厭ハずしてきたる遊賞
するもの少からず
橋辺ハ酒を煖め
茶を煮るの
両三店あり
遊人或ハ
甚ひ或ハ
詩作まて

春の
夜ハ
さくらに
あけて
しまひ
けり
芭蕉

殖られけるにや　其數凡一萬余株ありしとぞ（今存するものハ古木一園にあまれるのみあり延享の頃まで八年ごとに官府よりこれを殖つがせ給ひしとあり今ハ其數大に減じて凡三百株あまりありかも）立春より五十四五日目の頃開初て六十日目を満開の期とす　七十日目の頃に至りてハ落花も最も其年の寒暖によりて少しの遅速ハありといへども大方ハ違ハず　就中金井橋の辺ぞ佳境にして爛熳として[illegible]にして両岸の櫻玉川の流れを夾んで一目千里実に前後尽る際をしらず　遊べハさながら白雲の中にあるがごとく蓬壺の仙臺に至るかとあやしまる最奇観なるゆゑに近年都下の騒人韻士遠きを厭ハずしてここに来り遊賞す

津久戸明神社

築土銀町にあり（此地ハ牛込と小日向の界にて當社の方ハ牛込に属す）別當ハ天台宗にして善龍山成就院と号す　本地佛ハ聖観音傳教大師の作なり　相傳ふ天慶三年庚子相馬将門誅せられし後其首級を當國江戸平川の観音堂へ移し是を齋て津久戸明神と称せ

文明十年戊戌太田道灌江戸城の鎮守として宮社を造立ありしよし永亨記に武州入間郡川越の城の乾に氷川明神の社あるに準へ文明十年戊戌六月五日江戸城の乾に津久戸明神を勧請すと云々（江戸砂子に永亨記を引てかくいひされど永亨記に此の事見えざれバ考ふべし）又中古治乱記江戸城を築し条下に津久戸明神ハ氷川と同躰の由なれハ素盞嗚尊なりといへり

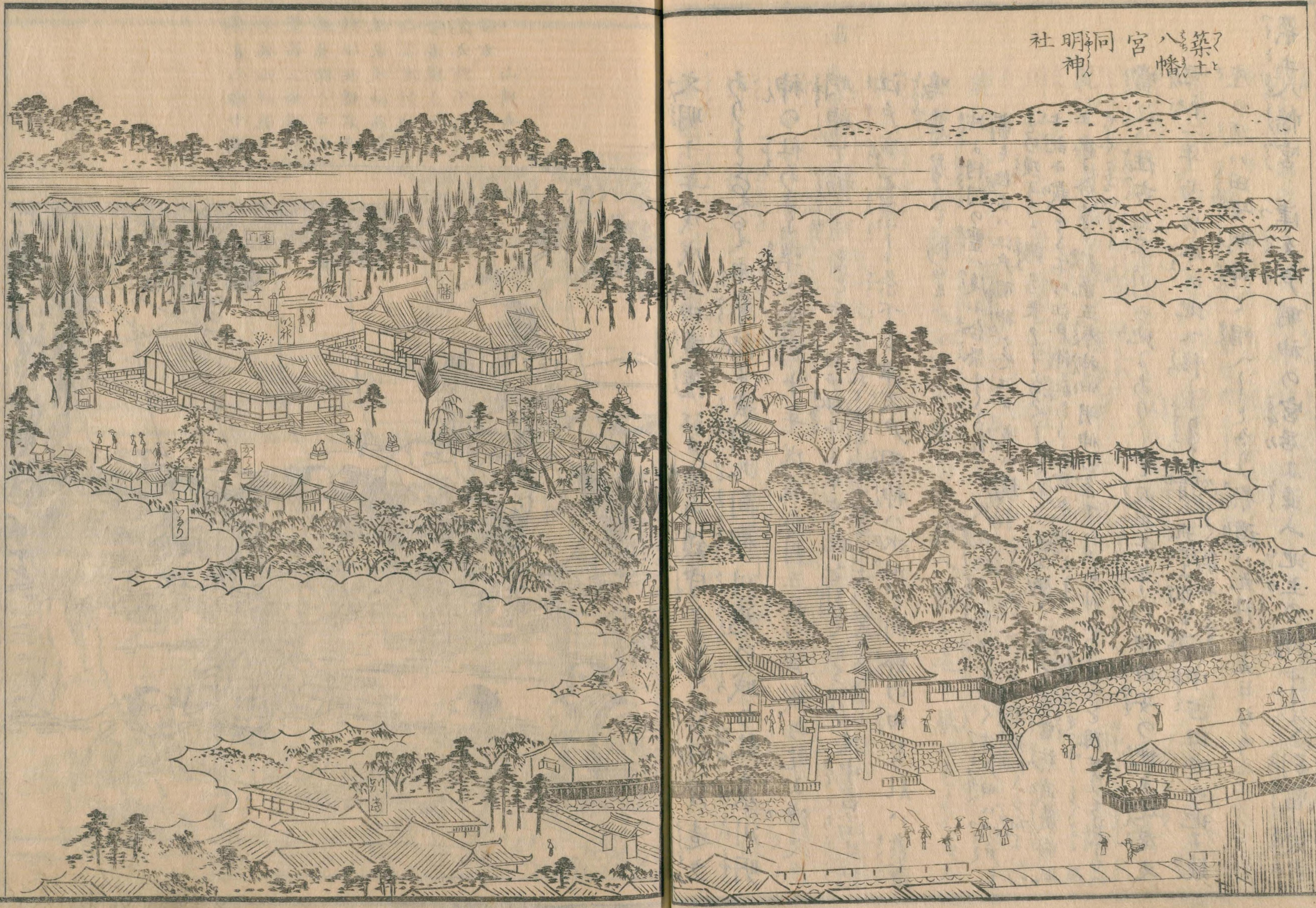
（按に将門の霊ハ後に合祭しけるならん歟　南向亭茶話に云く　筑戸旧ハ次戸と書を往古ハ江戸明神とて江戸城の鎮守たりしを江と次と字形相似たるよりその頃より謬り来りしなるべしとあり　是に依て考ふるに當社ハ武蔵國風土記に載する所の江戸神社ならん歟　祭神もまた素盞嗚なるゆゑよく風土記に合せり　猶第五巻神田明神の条下江戸の神社の考へを附せりてらしあハせ見るべし）

當社ハ往古上平川の地にありしを天正七年己卯田安の地に遷座又元和二年丙辰今の地へ移し奉る（昔ハ筑戸に作る後改めて築土とす）中古田安の地に鎮座の頃ハ田安明神と唱へしとなり　祭禮ハ九月十五日なり

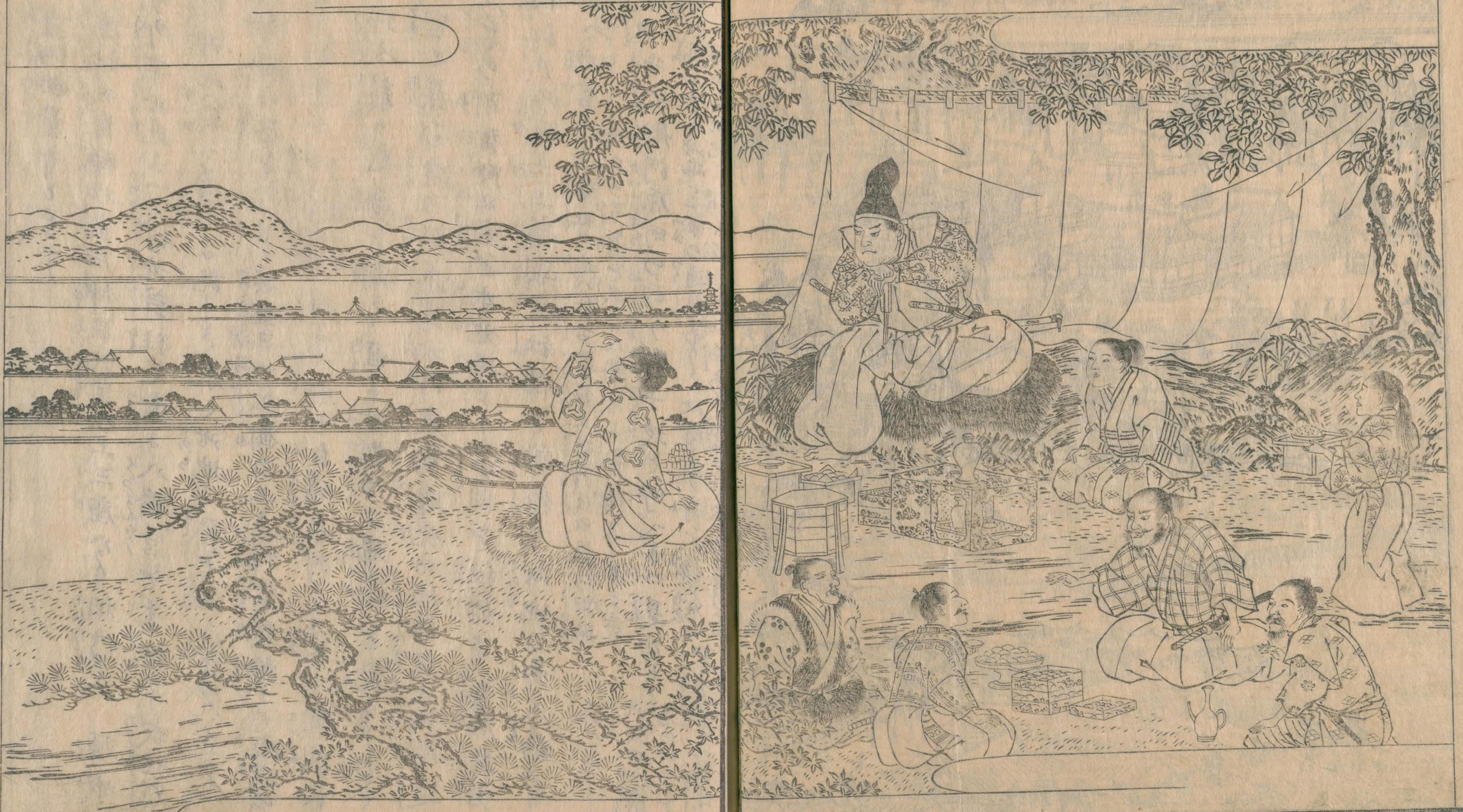
築土八幡宮

津久戸明神の宮居に並ぶ　地主の神にして　別當ハ天台

国立国会図書館　タイトル『江戸名所図会 7巻』 請求記号 124-114　ガラス使用


築土八幡宮 同明神社
裏門
八幡
明神
三峯
かくら所
いなり
別當

賸喜洛陽千歳
光瑞烟祥氣入
望昌三條橋影
遊魚聚十字街
頭征馬慥宕岳
風来吹袂過叡
山雲度引紳長
金湯城上立鵠
尾九陌不消遥
墨方
山崎垂加



宗松靈山無量寺と号す

祭神應神天皇神功皇后仲哀天皇以上三座なり相傳ふ嵯峨天皇の御宇此地に一人の老翁住て常に八幡宮を尊信す或時當社の御神此翁か夢中に託して永く此地に跡を垂たまハんとのり老翁奇異の思をなす　其翌日一松樹の上に瑞雲靉靆して旌旗のめぐれるを見る（松雲山の号ここに發ると云）時に一羽の白鳩来りて同し樹間にやどる郷人翁か靈夢を聞て直に此樹下に瑞籬を繞らしめて八幡宮と崇む遙の後慈覚大師東國遊化の頃傳教大師彫造し給ふ所の阿弥陀如来を本地佛として小祠を経始す其後文明年間江戸の城主上杉朝興社壇を修飾し此地の産土神とすといふ（或書にいふ當社の地ハ往古管領上杉時氏の塁の旧跡にして時氏の弓箭を以て八幡宮に勧請すと云々）

逢坂

（或大坂に作る）牛込船河原町の西今軽子坂と呼へるハ是なり（此坂下清溝の町家を揚場町と称するハ昔船の通ひありて此所より荷を揚る故に揚場町の唱ありて此地に多く軽子の住居ある故に坂の名とせりと云）里諺に云昔奈良帝の御宇小野美佐吾といへる人武藏守に任じて此國へ下る其頃此ところに玄及藤といひてきはめてうつくしき女ありしを美佐吾思ひそめてちきりをむすへり月日経て美佐吾ハ帝のめしにより奈良の都に上り若草山の麓に住たりしに程もなくみまかりぬ其時美佐吾いひけるハ我死なん後ハかならす亡骸を武藏の國におくりさねかつらか住る辺へ葬るへしと言さすまて境はるかに隔りぬるゆゑ家臣ハとて大和の國なりける若草山の麓に葬りつ其所を武藏野となつけそめまして其塚をもむさし塚とそ呼ひならハしとなり（其地の古老傳へ云くむさし塚ハ大納言兼武藏守良岑安世卿の古墳なりと）かくて後さねかつらハ美佐吾か身まかりぬるをもしらてひとり戀慕ひて神に祈り佛にちかひあけくれ歎き悲しみしにある夜夢のさとしあるを其まゝ此所にきたりしにまさしくして美佐吾にあひぬありし世なからの姿なりしかハうれしとおほえてしはしむつましくかたらふとおもひ

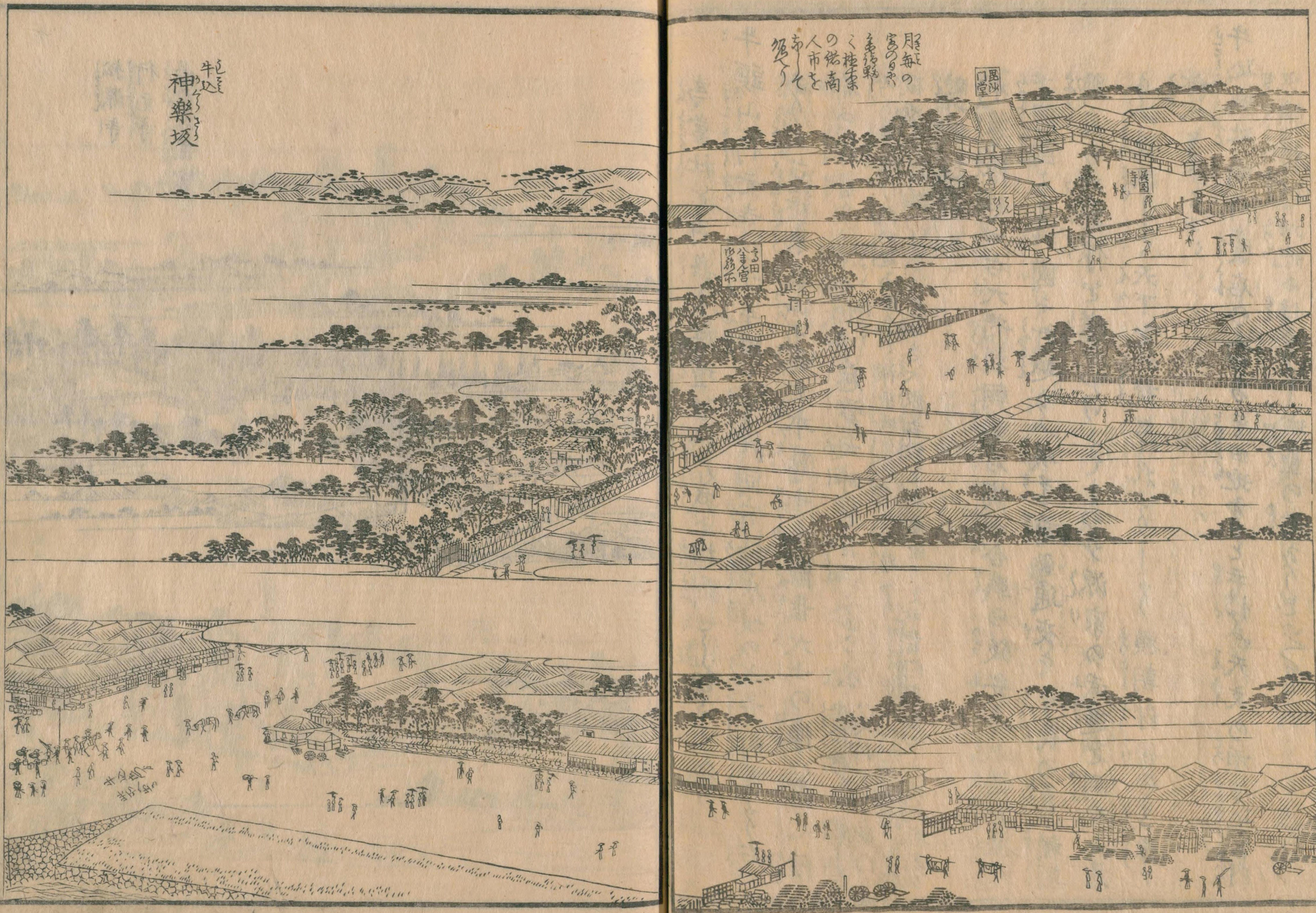
さるに其姿の消うせけれハ美佐吾か身まかりぬることを志りて此あたりの淵に身を投て空しくなりけりとなんそれより後此所を逢坂といへりとなん（神楽坂の西の小坂を土俗幽霊坂とよへり恐らくハ逢坂と混したる歟又地名をあふ坂といひ女の名とせるかつ好事の人の付会せるなるへし知るへし されと傳ふるの久しきまゝハやむことを得すしてこゝに出す）

神樂坂　同所牛込の御門より外の坂をいへり坂の半腹右側に高田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所に渡らせらるゝ其時神楽を奏する故に此号ありといふ（或云津久土明神田安の地より今の処へ遷座の時此坂にて神楽を奏せし故にかく号くとも又若宮八幡の社近くして常に神楽の音此坂迄きこゆるゆゑなりともいひ傳ふ）

若宮八幡宮　同所若宮坂の上若宮町にあり（或若宮小路ともいへり）別當ハ天台宗普門院と号す相傳ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の泰衡を征伐せんか為に發向す其時宿願ありて奥州平治の後當社を営ミ鎌倉鶴か岡の若宮八幡宮を移し奉らるゝともいへり（若宮ハ仁徳天皇なり後應神天皇に改め祭ると云）文明年間太田道灌江戸城鎮護の為當社を再興し社壇を江戸城に相對せしむるとなり

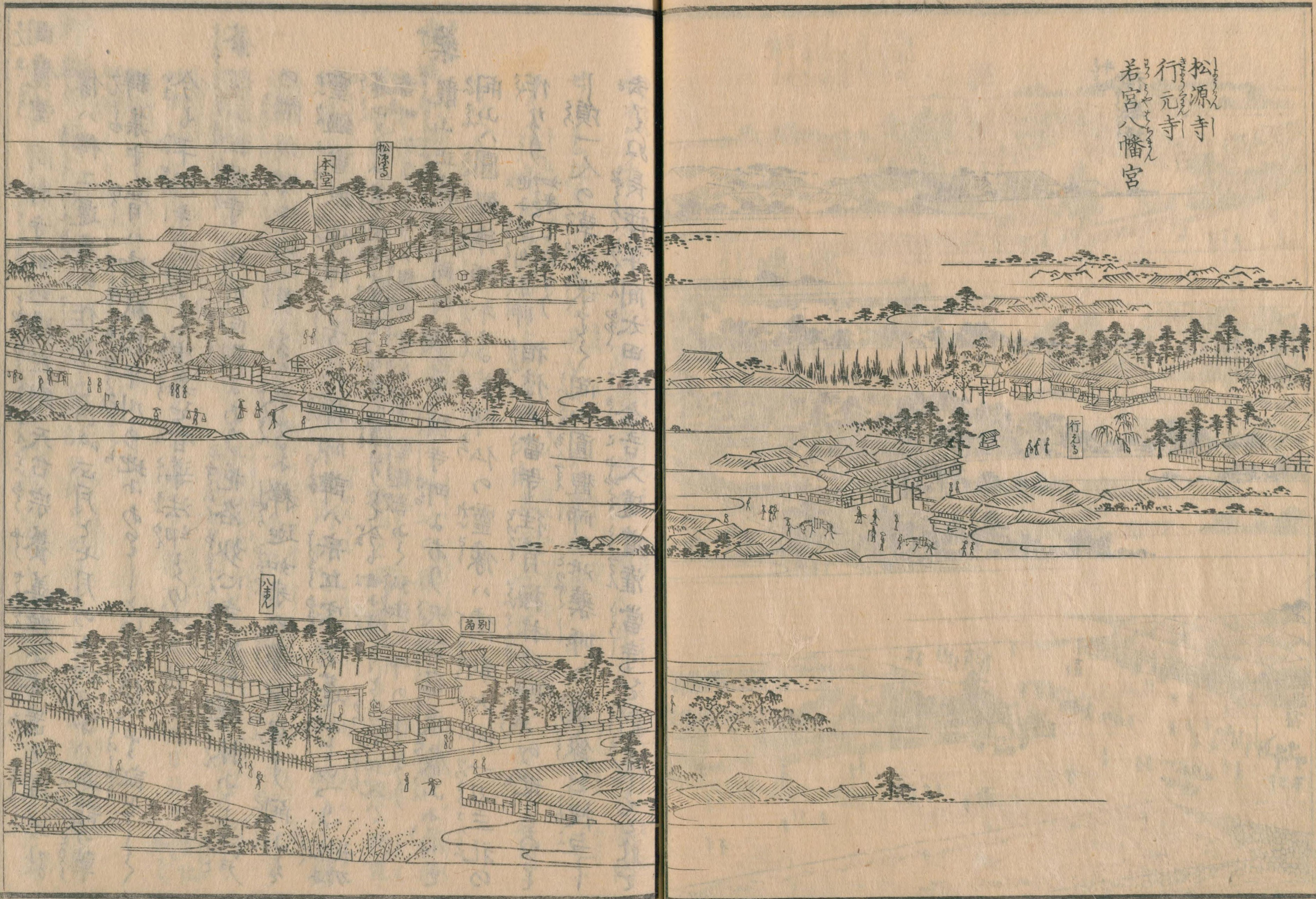
牛頭山行元寺　千手院と号す同所神楽坂の上寺町道より右にあり天台宗東叡山に属す本尊千手觀音大士の像ハ惠心僧都の作なり（襟懸の本尊と称す）慈覚大師を開山とすと云（土俗傳へ云當寺昔ハ大刹にして總門ハ今の牛込御門の辺にありて神楽坂其中門の旧跡なりしとなり大永の兵乱に堂塔破壊せし其頃のものとて古き大般若経を秘蔵せりと云昔門内左右に南天樹多かりしとて世俗今も南天寺と字せり）本尊縁起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴て下總國より此國に打越たまふ頃前に通夜せし其夜の夢に頼朝卿自ら此靈像を襟にかけたてまつり源家の武運を開くと見たまふ後果して天下を一統せられけるより頼朝襟懸の尊像と称へ奉ると云々

牛込城址　同所藁店の上の方其旧地なりと云傳ふ天文の頃牛込宮内少輔勝行此地に住せり城壘の跡ありといへり


毘沙門堂
善国寺
高田八まん宮御旅所

牛込（うしごめ）神樂坂（かぐらざか）

月毎（つきごと）の寅の日ハ参詣夥しく植木の諸商人市をなして賑へり



松源寺
行元寺
若宮八幡宮

松源寺
本堂
行元寺
八まん
別当

閻魔堂 同所寺町の通左側天台宗養善院に安置す閻王の像ハ佛工運慶の作なりといふ正月と七月の十六日にハ参詣の輩群集す昔ハ御城内平川の地にありしといひ傳へ其証として今も平川寺と号す中興を智導法印といふ

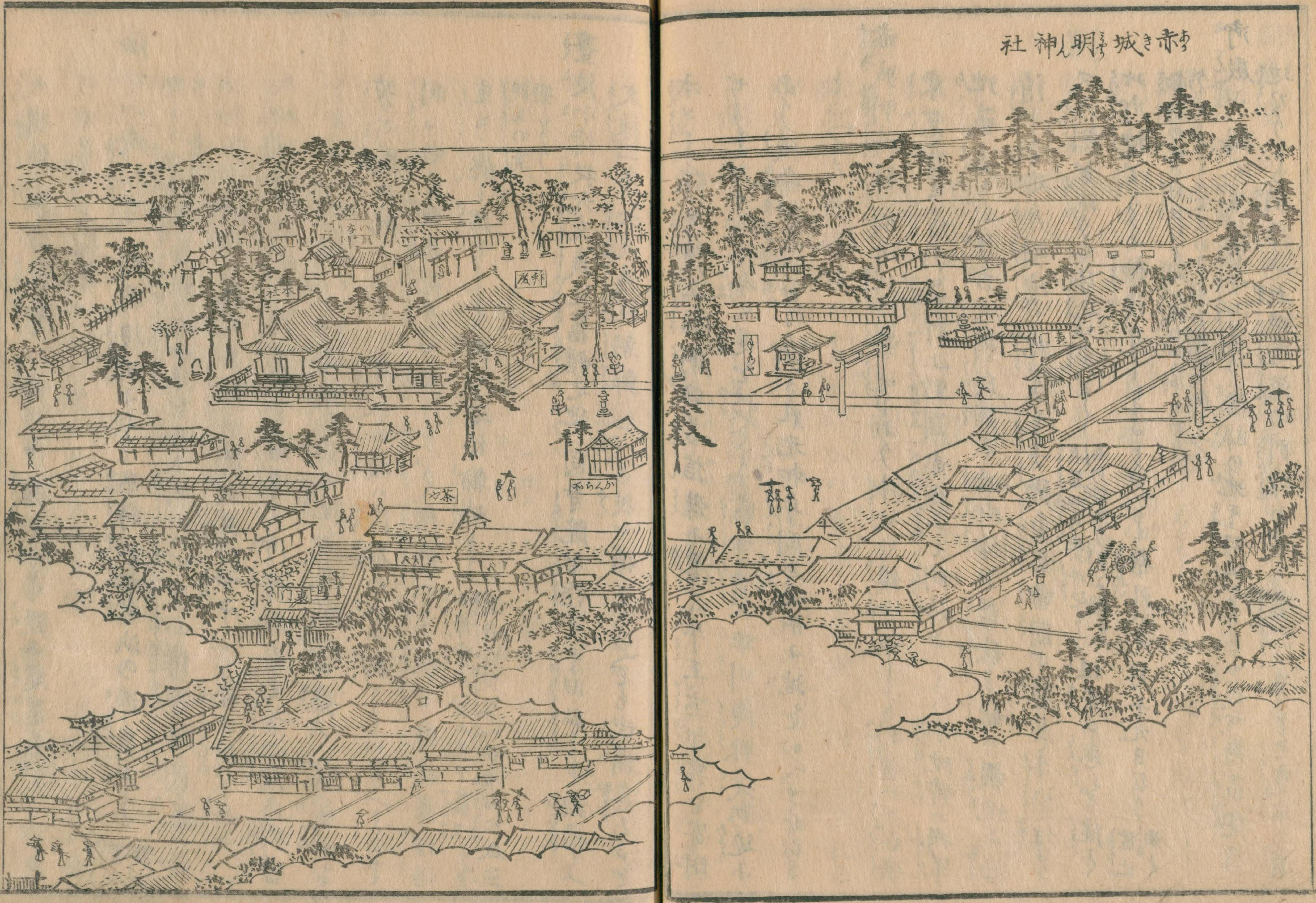
蒼龍山松源寺 同所向側にあり花洛妙心寺派の禅林にして江戸の觸頭四ケ寺の一員たり本尊ハ釋迦如来の像を安す開山を霊鑑普照禅師と号ス禅師諱ハ宗丘字を蓬山といへり（俗に長刀蓬山といふ昔境内に猿をつなぎて置たりとぞ今も世に猿寺と号す旧地ハ番町なりといへり）（観音堂本尊ハ聖観音にして弘法大師の作なり）

藥龍山正蔵院 同所南の方横寺町にあり天台宗東叡山に属す開山ハ圓観律師本尊ハ薬師仏の霊像ハ傳教大師一刀三礼の作なり（世に草刈薬師と称せり） 相傳ふ當寺往昔梅林坂（御城内）の地にありし頃一人の草刈来りて開山圓観師に此薬師の霊像を授与し去りぬ長禄年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを本尊とす其後上杉朝興尊信殊に厚く牛王宝印等を寄附せしもありとぞ今も是を傳へたり當寺昔ハ平川梅林坂の辺にあり後年田安の地にうつされ元和年間今の所に地をかへさせらるといへり

赤城明神社 同所北の裏通にあり牛込の鎮守にして別當ハ天台宗東覚寺と号ス祭神上野國赤城山と同神にして本地佛ハ将軍地蔵尊と云往古大胡氏深く此御神を崇敬し始ハ領地に勧請して近戸明神と称す其子孫重泰當國に移りて牛込に住せり（其居住の地ハ牛込より袋町の辺なり先に弁ず）又大胡を改めて牛込を氏とし祖先の志を継て此御神をこゝに勧請なしまゐらすといへり祭礼ハ九月十九日なり（當社始て勧請の地ハ目白の下關口領の田の中にあり今もしるしの木立ありて是を赤城の森とよぶ）

御殿山 同く東の方中山家の藩邸の地其旧址なりとも或云萬昌院の辺なりとも相傳ふ太田道灌の別館ありし舊跡なりとぞ寛永の頃

ガラス使用



赤城明神社

拝殿
本社
いなり
茶や
かくら殿
別当
表門
てうづや

大將軍家御放鷹の時の御儲として假に建置たまひし御殿の地なりといへり

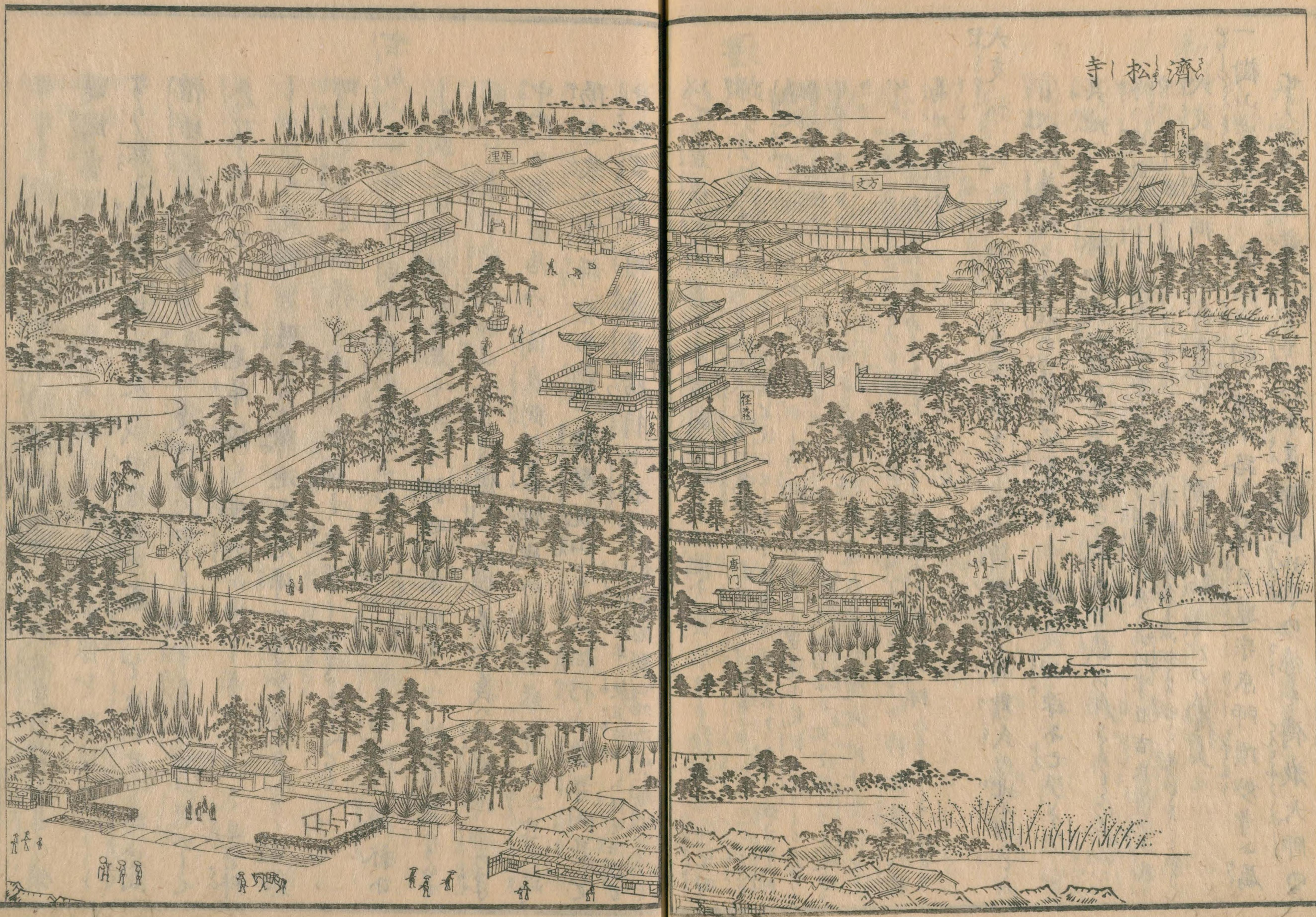
蔭涼山濟松寺 同所榎町にあり京師妙心寺派の禪崗にして（昔ハ妙心寺より輪番せしといふ）本尊釋迦如来を安す開山ハ心印正傳禪師開基ハ素心尼なり此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女にして春日局と共に大將軍家昵近の侍女なりしも當寺に御佛殿あり芳心院ハ別當を務む（此寺ハ芳心尼の開創なり）御佛殿の前の池を鳳凰池と號く靈亀水まで芳心院の地にありて寛永の頃ハ御茶の水に掬さしめ給ふとあるも開山塔ハ養春院是を預るすべて僧坊六宇経堂鐘樓庫裡浴室等巍々然として軒を連ね輪煥たり（三佛堂の額ハ天下蔭涼とあり随自意院宮一品准后公啓法親王の真筆なり）

豊後小侍従大友義延舊館之地 同寺院を指て其旧跡とも相傳ふ文禄二年大友義延朝鮮征伐の役に補せらるれとも武備怠あるを以て豊臣大閤罪して當國へ迁し此地に蟄居せしむ此地即其旧跡なりといへり（南向茶話云大友左兵衛督義統文禄年間朝鮮征伐の役に怠りあるをもて領國を没収せらる其後常陸國に於て卒す嫡子宗五郎義延此地に住む義延ハ後四位に叙し侍従に任をゆるさる豊後小侍従と称しけるとあり慶長五年関ヶ原御一戦の後常州筑波郡に於て三千五百石の地を賜るといへとも早世す又江戸鹿子といへる草紙に義乗と記せしハ義延の名を謬るなるへし）其後大橋立慶此地に居住せしといふ（望海毎談といへるものに寛永十七年の事實を記せし次に御祐筆大橋竜慶高田大友のやしきを賜り其地に天満宮の祠ありしよし記せり）高田天満宮の（下に詳なり）

大友松 同所天神町の東に續きたる御持筒組高野氏の地にありと云昔大友義延か別荘の庭前の松ありしか其後田禄に亡ひたりしを其地の主旧跡を失はむことを歎き若木を栽られたりといふ（或人云大友家の傳説に大友宗五郎義延武州へ迁る頃従ひ来る家臣吉良傳左衛門某か營作せし数寄屋の前の松にして蔭涼山濟松寺の名も此松より出て号けりとあり）

大友稲荷祠 同所にあり是も義延の勧請といひ傳ふ

一樹山宗柏寺 濟松寺向の横小路にあり日蓮宗京師頂妙寺に属せり開山ハ日意上人と号す本尊釋迦如来の像ハ傳教大師の



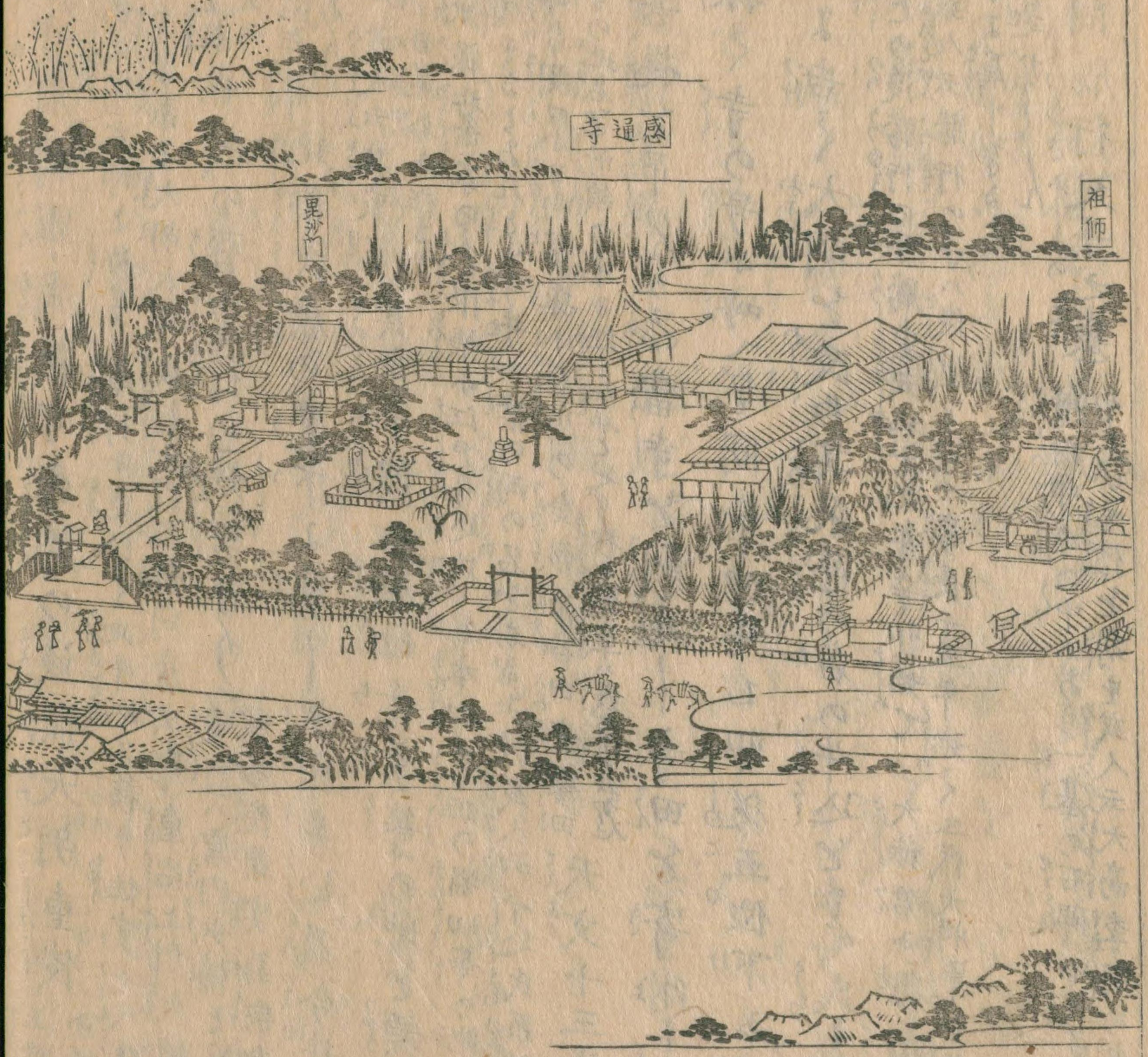
済松寺（さいしようじ）

持仏殿
方丈
庫裡
鐘楼
仏殿
経蔵
池
唐門

作なり相傳ふ延暦年間傳教大師　桓武天皇の詔を奉り鎮護國家除災延命の為に叡山に於て此靈像を彫造ありしとなり然に元亀二年辛未織田信長公叡山を放火せし時仏閣僧坊悉く灰燼す其時護持の人ありて此本尊斗をハ取出して恙なかりしを　後水尾帝深く佛乗に帰し給ふを以て是を拝し給ひ又宸翰を賜ひて釈迦牟尼佛の号を添給へり日意師此本尊を感得し當寺を闢て安置し奉るといへり

雲居山宗参寺　同所辨財天町にあり（此地を土俗とゞめきと云）曹洞派の禅林にして駒込の吉祥寺に属す本尊釈迦如来脇士ハ文殊普賢なり開山を看栄稟閲和尚と号く總門の額第一義ハ心越禅師の筆中門の額雲居山ハ岡良弼の書佛殿の額宗参寺の三字ハ崎陽道栄の書禅堂の額ハ黄檗悦山といふ相傳ふ當寺開基を牛込宮内少輔藤原勝行と称す（弘治元年従五位下に任し法名を参秀院殿心外清雲庵主と号す當寺に墳墓あり）鎮守府将軍武蔵守秀郷の後胤大胡重俊（上野國大胡に城を築きかしこに住す則大胡太郎と称せり重行に逮ひて此牛込に移り住す土人牛込殿とよべり或人云其家系に大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡より武州牛込に移て住せるとあり云云）十代の孫重行の嫡男なり（重行ハ宮内少輔と号ス法名ハ雲居院殿実翁宗参大庵主と号ス天文十二年卒又當寺に墓あり）北条氏康の麾下に属し武州牛込及今井（赤坂の今井谷）櫻田比々谷（或人云其家系日尾谷に作ると）其余下總の堀切千葉等の地を領し牛込に住す（永禄北条家の分限帳に江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏領せるとあれとも今井千葉の両の名をしるさず或人云牛込氏系譜にハ牛込其余高田落合関口小日向冨塚小石川の金杉市谷田安櫻田朝草同金杉等の地名を所領の中に注し加へたり按に朝草ハ浅草を云ならん）天文十三年甲辰父重行の菩提を弔らんか為當寺を創建し寺田を寄附し父重行の法号を採て寺の号に呼へり同二十四年乙卯従五位下に任す其時氏康より告て大胡を改め其采邑の名の牛込をもて氏とせ（天正十八年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て　大神君に謁し奉りし後御幕下となり或人云勝行の子ハ俊重といふ慶長十五年始て三代大将軍を拝し奉りて御當家に属し奉ると両説いづれか是なるらん）

大胡重行同勝行父子之墓（境内卯塔の中にあり一基の石碑に父子の法号およひ其傳を刻む或人云大高季明の書ありと）



高田本松寺
願満祖師堂

（いへりしるゝや否やとしるゝハ）榮の梅（開山看榮和尚殖られしとぞ）

三明山千手院 同所七軒寺町にあり真言宗開山ハ舜倚法印と号す本尊千手観音の像ハ御長八寸九分脇士多門持國の二天なり赤栴檀にて毘首羯磨天の作なりといへり相傳ふ往古越後國安巨山にありしが天正年間豊大閤秀吉公柴田勝家と戦ふに及んて蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といふ人是を感得す既にして元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主堀田家に仕ふ故ありて冨永氏某傳来し後當寺に安置したりといへり

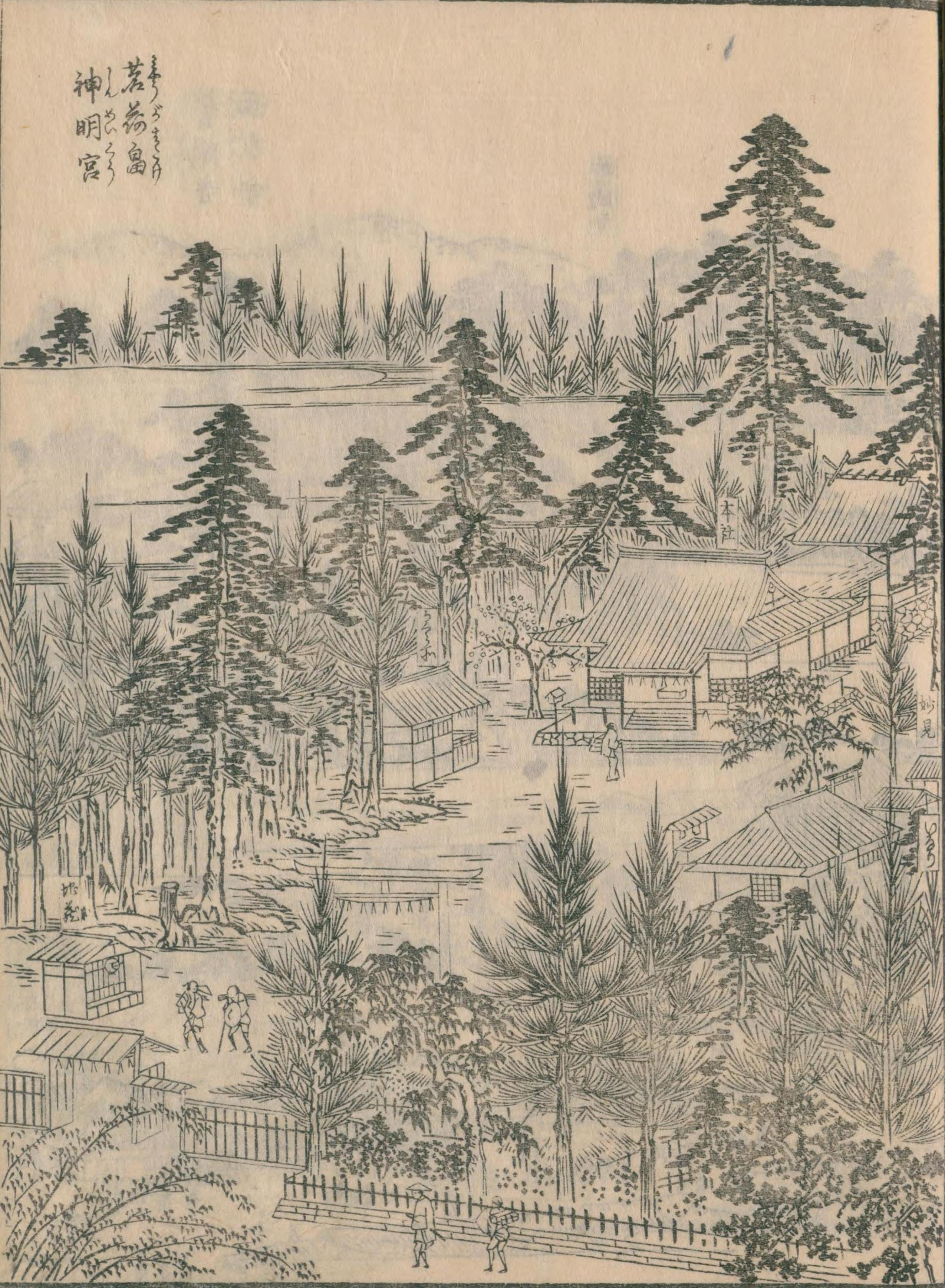
正定山幸國寺 同所原町にあり日蓮宗小湊の誕生寺に属す開山ハ日觀上人と号す當寺に安置の日蓮大士の像ハ世に布引の御影と称せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉に在し頃房總の國郡数月疫癘流行せりこゝに於て人民大士に救を求む乃大士

佛工をして自の像を造らしめ白布に経題を書して其御手に掛させ囑して曰く則是日蓮なりと云々依て此靈像を其地に移すに疫疾の患へ頻に退きける故に此靈像を小湊の誕生寺に安置したりしが又宗門流布の為寛永七年庚午二月十六日當寺に移しまゐらせしといへり當寺ハ加藤肥後守清正の開基にして宗祖の靈像ハ寒暖に應し衣服を改むるなり池上に同しきとなん（故ありて其衣服ハ年々阿部氏某調進す由あり）

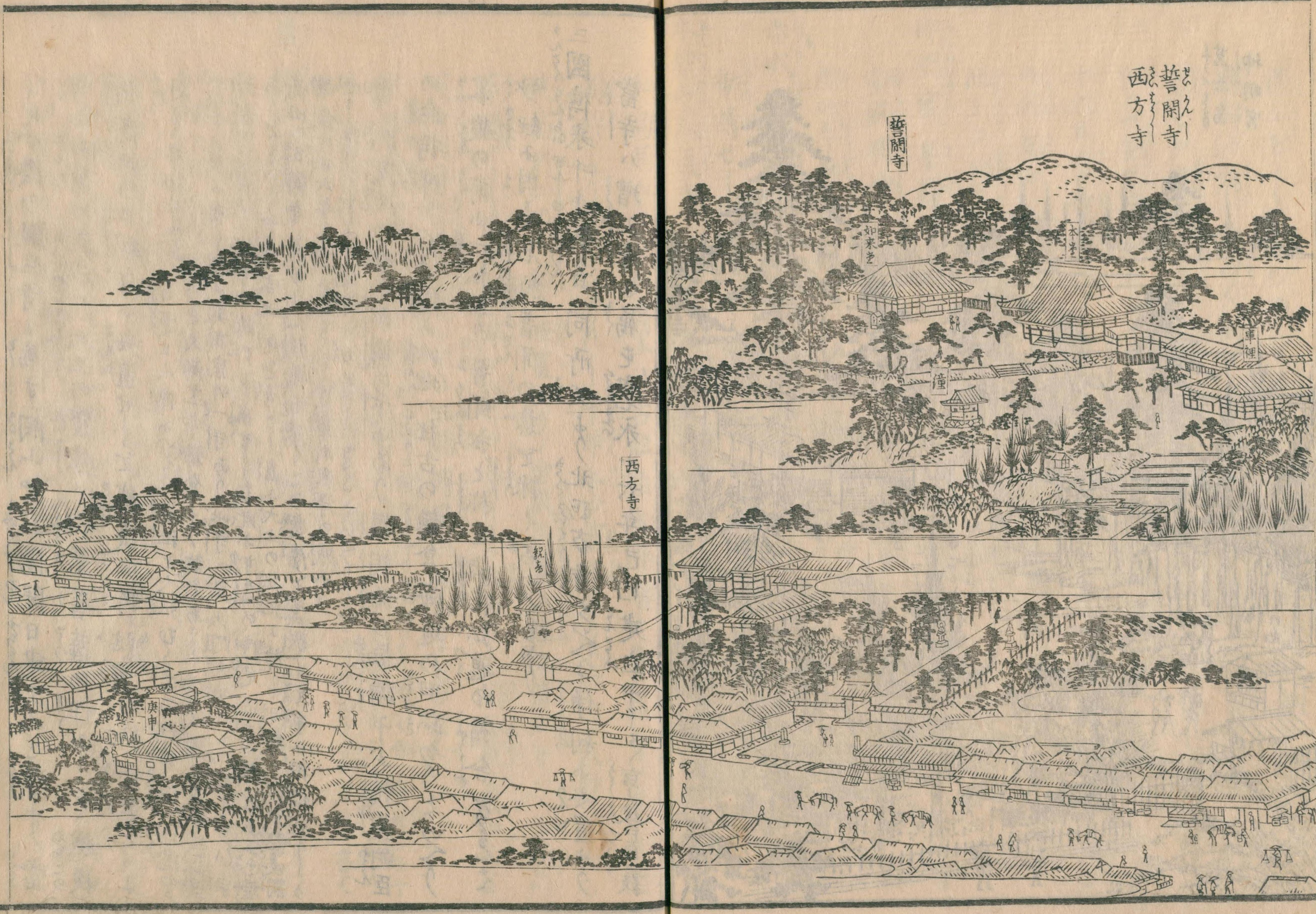
神明宮 早稲田大田圃にあり祭神天照春日八幡三座なり同所赤城明神の別當等覚寺より兼帯す祭礼ハ九月十六日なり鎮座の年歴詳ならずといへども（天和二年同所榎町よりうつすといふ今大番組林氏某の宅地ハ其旧地なりといへり）

赤城明神舊地 同所田畔小川に傍てあり大胡氏初て赤城明神を勧請せし地なり故に祭礼の日ハ神輿を此地に渡しまゐらすとなん

本妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上にあり日蓮宗に



茗荷畠 神明宮



誓閑寺（せいかんじ）
西方寺（さいはうじ）

誓閑寺
如来堂
本堂
庫裡
撞
西方寺
観音
庚申

して小湊の誕生寺に属す開山を寂陽院日建上人と号す當寺に安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作にして越後國高田の日朝寺に安置せしを越後少将（忠輝卿）の御母君こゝに遷し奉るとなり（日蓮上人傳にいはく宗祖上人弘むる所の法華經の功德あらはれて文永十一年鎌倉より赦免ありて佐渡國より越後高田いたりたまふの頃其地に真言宗の一寺あり此寺の毘沙門天老人と化現しつゝ宗祖大士を導きて其寺に誘引し宿せしむ既に本尊の御足泥土に穢れあるを其澄あるをもつて寺僧吉祥是を奇とし直に大士の法化に帰し日朝と改む越後國高田の日朝寺これなり上杉謙信深くその靈像を尊敬し其家に相傳せしか謙信天正六年に卒す依て其後奥州米澤の城に遷し奉りしをまた當寺に安置し奉るといへり）

摩利支天の像ハ松樹の下にあり頼朝卿の勧請にして頼義朝臣の念持佛といひ傳ふ此地ハ往古の鎌倉海道の旧跡なりといへり客殿の前に一松あり普聞松と称す法花弘通の精舎なるゆえ妙經に因て名称普聞の意を採て名づくとなり

三國傳来千手觀音 同所坂より北西方寺といへる浄刹に安置せり當寺ハ増上寺に属す寛永十六年己巳建立にして亨誉貞義和尚開山より相傳ふ往古弘法大師唐土青龍寺の恵果阿闍梨より授与せられし中印土の靈佛なりといへり大師帰朝の後高野山の大塔に安置ありしを彼山麓に住る流水といへる沙門感得して武州浅草に移し奉りしか故ありて開山貞義和尚當寺に遷し奉るとなり故に三國傳来の称ありといへり

自樂居士墓（境内卯塔の地にあり備前國の産にして齢を保つ事既に百十四歳なり常に壮年の人のごとく見ゆ文字を書する事を得ざりしに衆人のをしへにしたがひ百歳の頃より壽の一字を学びえて是を紙に書て人に与へしとなり宝暦三年癸酉十二月三日に没す）

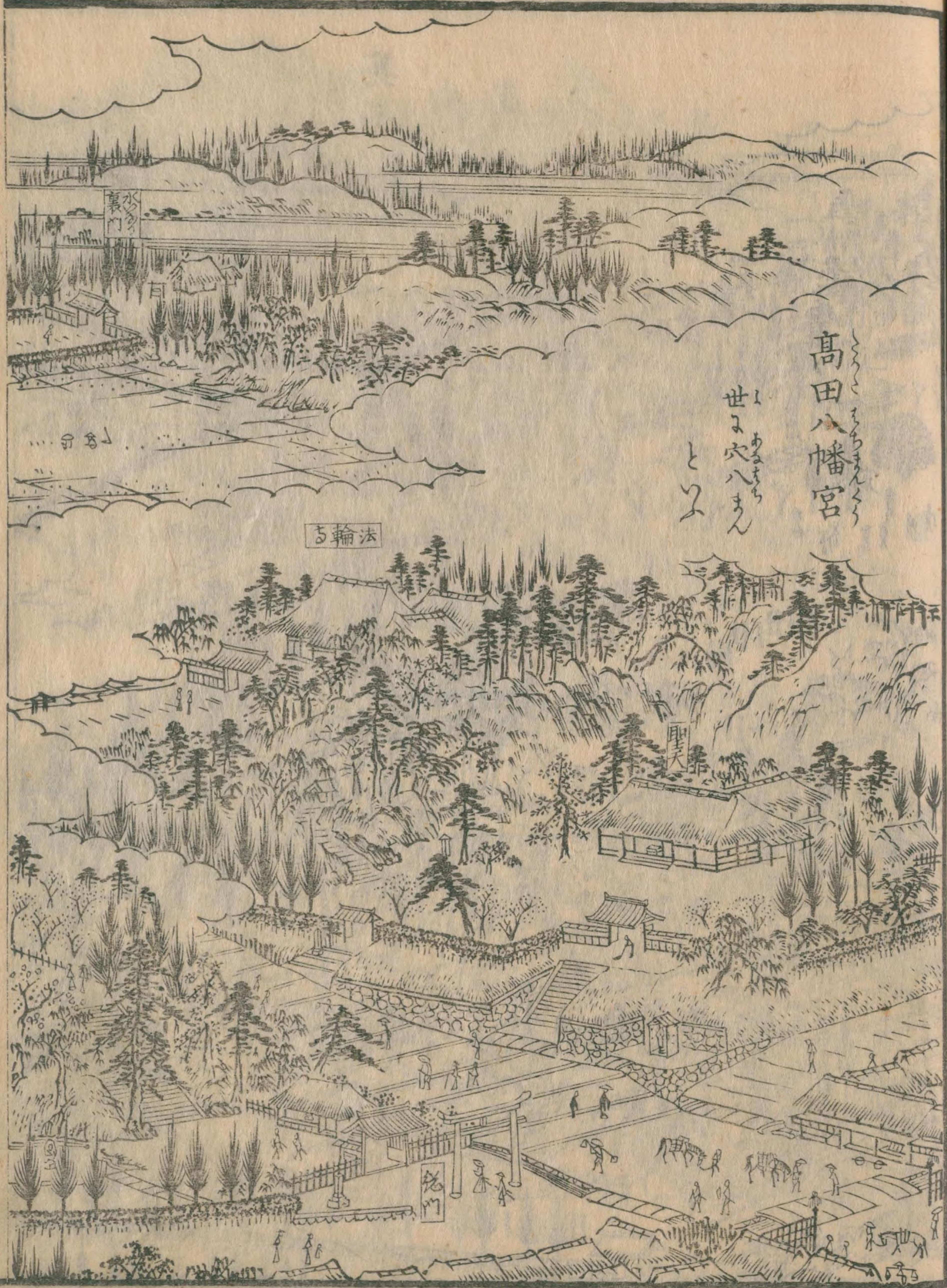
亀鶴山誓閑寺 同北に隣る易行院と号す浄土宗にして靈巌寺に属す本尊五智如来の像ハ（各長八尺）開山木食本誉上人秋風誓閑和尚の作なり常念佛の道場にして清浄無塵の佛域なり當寺昔ハ少しの庵室にして其前に松樹四株を植て方位を定めて方松庵といひけるとぞ今四五十歩南の方道を隔て向ふの側に庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり

稲荷祠 境内にあり開山誓閑和尚ハよく仏像を作るの工を得て常に吹革をもつて種々の細工をなせり此故に境内に稲荷を勧請し十一月八日ごとに吹革祭をなせしとあり今もその余風にて年々そのまつりあり

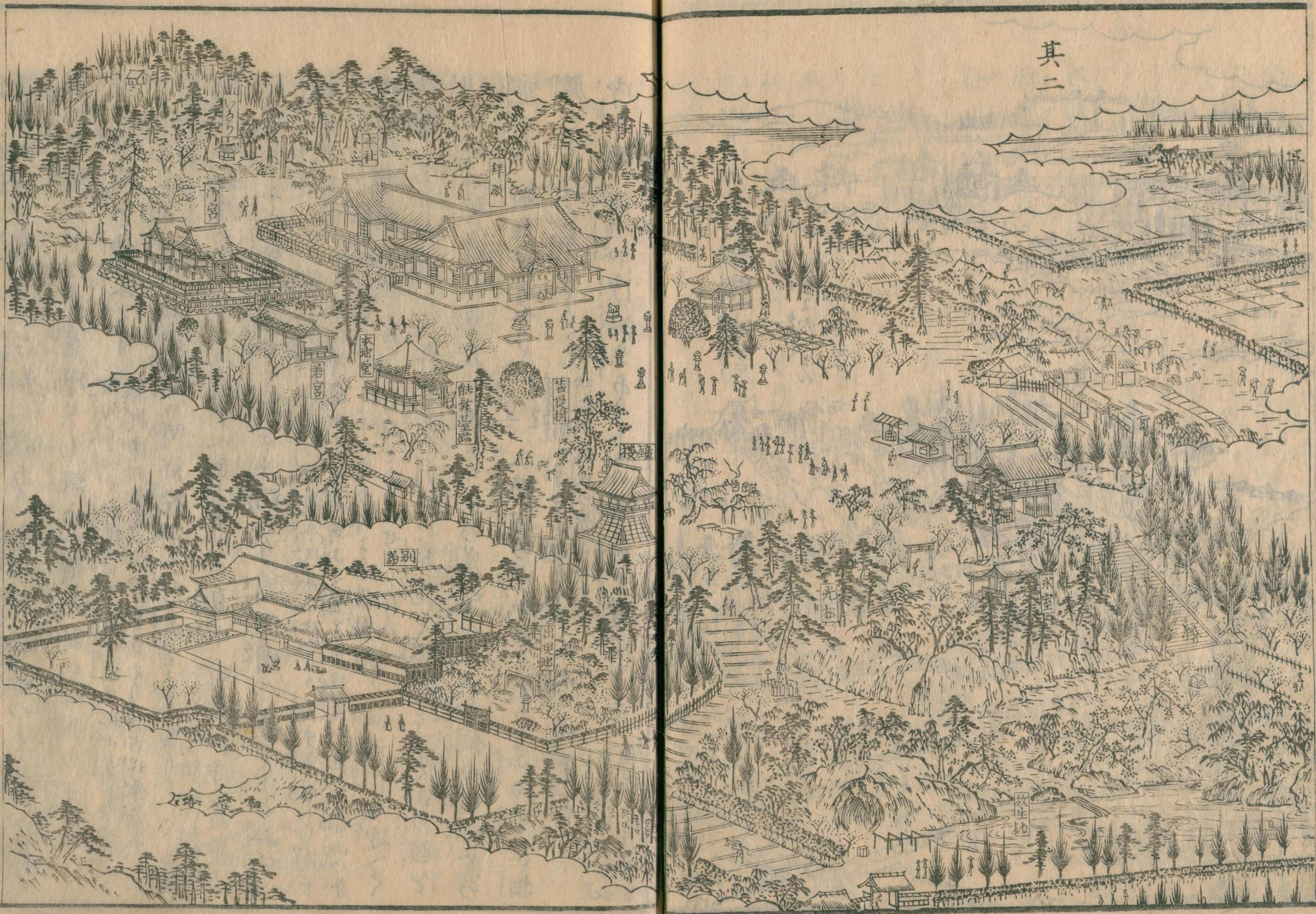
垂枝櫻 本堂の前にあり菊岡沾涼かいはゆるしらぬ櫻と名付しものハ是なり附て云當寺境内に横たはれる小溝の流れをもつて豊島郡と荏原郡との堺とすと當寺鐘の銘にしるせるを挙けり

金川 同所穴八幡の前を早稲田の方へ流るゝ小川を云とあり（今ハ古川と唱へり）水源ハ戸山御庭中より發する所なり文明年間太田道灌遊獵の時急雨に逢しハ此地にして昔ハ川の幅も廣かりしとあり其頃ハ加奈川又加能川とも称けるとあり（或ハ蟹川に作る）

高田八幡宮 牛込の總鎮守にして高田にあり（世に穴八幡とよへり）此地を戸塚と云 別當ハ真言宗にして光松山放生會寺と号く（旧名ハ威盛院中之坊と唱へしと）なり 祭礼ハ八月十五日にして放生會あり 旅所ハ牛込神楽坂の中腹にあり 社記云寛永十三年丙子御弓隊の長松平新五左衛門尉源直次に與力の輩射術練習の為此地に的山を築立らる八幡宮ハ源家の宗廟にしてしかも弓箭の守護神なれハとて此地に勧請せんことを



高田八幡宮
世に穴八まんといふ


其二
いなり
本社
拝殿
行宮
若宮
本地堂
護摩堂跡
菩提樹
鐘楼
別当
出現地
観音
裏門
楼門
光松
氷室
放生池

謀る此山に素より古松二株あり其頃山鳩来つて日々に此松の枝上に遊ぶを以て靈瑞とし假に八幡大神の小祠を営みて件の松樹を神木とす（南向亭云く此地ハ旧早稲田邑の地中島といふ此地ハ昔柳津六兵衛といへる冨民あり往古北条家に仕へし士にて其人の持傳へし山林にてありしとそ）此地昔ハ阿弥陀山と呼来りしとありされと其所以を知者なかりしに同十八年辛巳の夏中野宝仙寺秀雄法印の會下に威盛院良昌といへる沙門あり周防國の産にして山口八幡の氏人なり（幼くして毛利家の侍榎本氏某に仕へしか榎本氏没して後十九歳の年遁世して高野山に登り宝性院の法印春山の弟子となり一紀の行法をとけて二十一歳の時より諸國修行の志を発し其間さまくの奇特をあらハせりといふ）依て此沙門を迎へて社僧となしむ故に同年の秋八月三日草庵を結んとして山の腰を切開時にひとつの霊崫を得たりその崫中石上に金銅の阿弥陀の霊像一軀たゝせたまへり（御長三寸）八幡宮の本地にしてしかも山の号に相應せるを以て奇なりとせり（穴八幡の号こゝに起れり其旧址今猶坂の傍にあり）又此日将軍家御令嗣（嚴有公）御誕生ありしかハ衆益其霊威を志る（同年八月九日）（江戸名所記に云）

（社頭の貌ハ一町四方に縄張してハ其地を開き本社をハ神木の松の本に迁し八重垣を結まはしける其時加州大守数百の人歩を贈らせ其地を築固めしむ依て日ならず成就し同十四日迁宮の式を執行す松平新五左衛門尉其与力の人々を引供して的山の辺にて幕を張式正の小的を建る神的ハ射法なれハとて小池の何某か子十二歳なりしか是を勤むと云云）其後元禄年間今のことく宮居を御造営ありて結構備れり（南向亭茶話に嚴有公殊に當社を御崇敬あり御宿願の御満あつての後當社を営せしむ裏門ハ内藤豊前守曾賢堂ハ松平左近将監御手水垣ハ増山兵部少輔等これを寄進すとあり又江府神社略記及ひ和漢三才図會等の書に元禄年中桂昌院殿の再興なりしと云く）

若宮八幡宮（本社の前左にあり）

東照大權現（同所に並ひたまふ毎年四月十七日参拝の人多し）

氷室明神祠（本社に相對す盛徳といへる二字を彫る額を掲く祭神大己貴命元禄二年十二月二十二日牧村氏直良十六歳にして疱瘡を患ふ同三年正月二日金峯の住人渡辺氏是善靈夢の應ありて此神を祭る直良此神に祈願して平愈を同七年の頃始てこゝに鎮座せしむるといひ傳ふ）

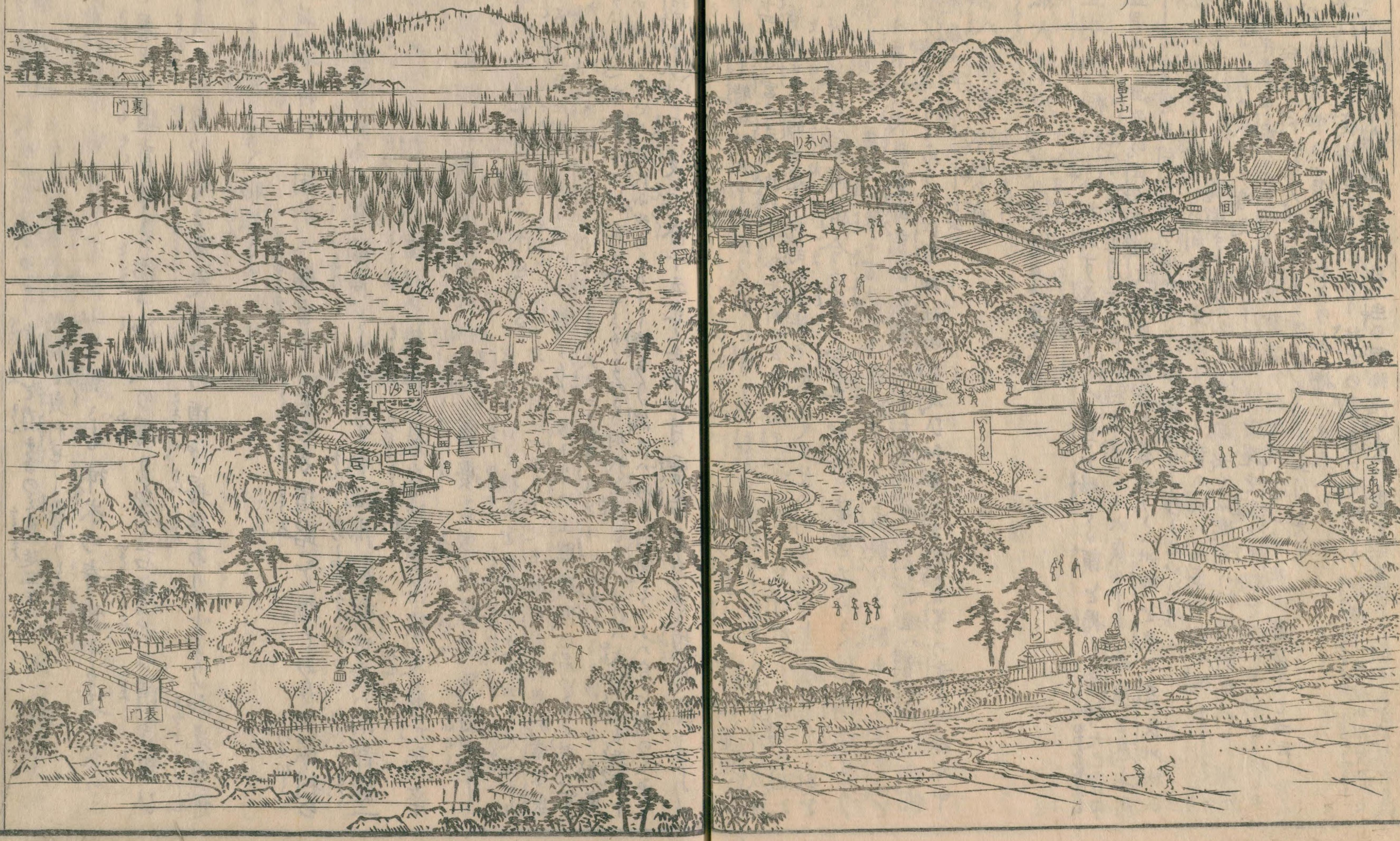
光松（別當寺と本社との間坂の支路にあり昔の松ハ延享年間に枯たりとそ今あるそのハ後世殖継る若木なり南向亭云く此地昔ハ松樹繁茂せし山林にて其中に一株の松あり暗夜にハ折として瑞光を現す故に其樹を称して光り松と云とそ又寛永十三年始て當社八幡宮勧請の頃此樹上に山鳩来り遊ひしと云云）

放生池（石階の下にあり山の腰より清泉志くり切川実に石清水の名に應せるの奇特といふへし）

出現所（坂の半腹絶壁にそひてあり往古の靈崫の旧址なり近頃迄其地に出現堂と号けて九品佛の中下品上生の阿弥陀如来の像を安置せし堂宇ありしか今ハ廃せり）

ガラス使用

高田稲荷（たかたいなり）
毘沙門堂（びしやもんどう）
富士山（ふじさん）
神泉（しんせん）
守宮池（やもりのいけ）
寶泉寺（ほうせんじ）


冨士山
いなり
浅間
やもり池
宝泉寺
裏門
毘沙門
表門

能舞臺址（本社の左の方にあり今礎を存するのミ寛延三年庚午三月観世太夫一代能を興行せし跡なりといふ）

抑當社の別當寺を光松山と號るも神木の奇特によつてなるとぞ神と君との道直にして治る御代の濁りなく石清水の清き誓ひ家もそうくを思ハるる殊更元禄の頃御再興ありしより和光の神徳日々に顯れて昭然たり

高田稲荷明神社 同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の産神と称す故に戸塚稲荷とも唱ふる本地佛聖観世音ハ南都徳一大師の作なり相傳ふ當社の權輿ハ最久遠なりしに文亀元年辛酉上杉治部少輔入道朝良（南向亭朝興とも）霊夢に依て宮居を再興し戸塚村の地を社領に附せらる（當社に古き棟札を蔵せり文に云く天文十九年二月二十九日牛込主膳時國再興別當宝泉坊秀宝大工与左衛門同左衛門五郎とあり按に牛込主膳時國の名いまだ考へず上州大胡氏の後裔武州牛込に住して天文二十四年氏を牛込に改むるとのこと其家系および牛込宗参寺の傳記に載せたりよつて時代を合せ考ふれハ大胡氏も天文十九年の頃ハいまだ牛込氏に改めざりし時なり然れハ此に時國といふハ自ら別の人にてありしならん欤猶他日訂正すべし）其後元禄十五年壬午四月霊告ありて榎の梢より霊泉涌出す眼疾を患ふる者此霊水を以て洗ふにいちしるく奇験あり仍て土俗當社をさして水稲荷とも称せり毎年二月初午日奉射あるも祭祀ハ九月九日なり

神泉（社前榎の梢よりしたゝり出るをいふ霊験ありといへり）

毘沙門堂 同境内に高き丘の上にあり本尊毘沙門天王の霊像ハ慈覚大師の作にして武蔵守藤原秀郷の念持佛なりといへり相傳ふ慈覚大師江州唐崎の濱に至りまして川の笛を拾ひ得給ふ内に丈長一寸八分の多門天の霊像あるを大師随喜して自是を念持佛とす仁壽年間旧里下野國に下り佐野の大慈寺に入り給ひ丈長二尺五寸の多門天像を彫刻ありて先の霊像を其胎中に籠めまゐらせ大慈寺に安置ありしを天慶中武蔵守秀郷平将門を征伐の後此地に移したりとあり（紫の一本といへる冊子に秀郷将門を退治せるの時深く毘沙門天を念じ奉りしに毘沙門天兜の上に現じ給ふを自ら模し彫むとあり寺傳に異なり）拝殿に掲る所の多聞天の額ハ長崎

道栄の筆なり其傍に朝日庵と云ありて眺望尤幽雅なり此地の時鳥ハ世に勝れて早く啼ゆゑに其名を得たり旗立桜も同し堂前石燈籠の側にありしか今ハ若木なり（或人いふ秀郷此所にて旗を立らるとも又ハ此地昔新田家陣営の旧址なる由云伝へて旗立桜冑掛の梅杯云もありて稲荷の社前池の辺にありしか枯て後植つきぬるよし南向亭茶話にみゆ旗立桜ハ桜の一種に帆立桜といへる単六瓣のものあり中に葩一片別に帆を立るめく狂ひて旗を立るに似たり是を帆立桜とよへり土人謬傚せるのみ）船繋松も同し堂後山の中腹にありしか是も今ハ枯たり（昔大将軍家此地に御遊猟の頃此松の齢を問せらる寺僧某凡千年に及へる由答へ奉りけれハ千年松と唱ふへき旨鈞命ありしとなり船繋松の事ハ第五巻目日暮青雲寺の条下に詳なり守宮池も同し山下にあり水中蜥蜴多し故に此名あり（寛永の頃鈞命に依ていもりか池とよはしとそ））

禅英山寶泉寺 稲荷と毘沙門両社の別当寺にして天台宗東叡山に属せり開創の年歴未考へ本尊薬師如来の像ハ伝教大師の作なり（或人云花洛鮹薬師と同躰なりといへり）相伝ふ文亀元年辛酉上杉治部少輔朝良（或云朝興）霊夢を感して後稲荷の宮居を再興し又当寺を創建して大檀那となる（禅英とハ朝良の法号なりとそ）其後天文十九年庚戌牛込主膳時國といへる人宮社寺院共に重修せしよし棟札に記せり（當寺に楠正成の兜と称するものあり裡に越前國豊原住人貞生作と彫付てあり其信否をしらす）常念佛堂ハ構の外にあり本尊阿弥陀佛の像ハ聖德太子の作なりといへり（堂内に銅像の地蔵尊を安す）

高田冨士山 稲荷宮の後にあり巖石を畳むて其容を摸擬し安永九年庚子に至り成就せしとなり此地に住める冨士山の大先達藤四郎といへる者これを企てけるとそ毎歳六月十五日より同十八日まて山を開きて参詣をゆるす山下に浅間宮を勧請してあり

宗良親王陣営舊址 寶泉寺の山林を指て其旧趾とす後村上帝の正平七年壬辰新田家信濃宮宗良親王を供奉して武蔵野合戦ありし時の陣営の旧址なりといへり（宗良親王ハ後醍醐帝第三の皇子にて信濃の宮と申奉る）

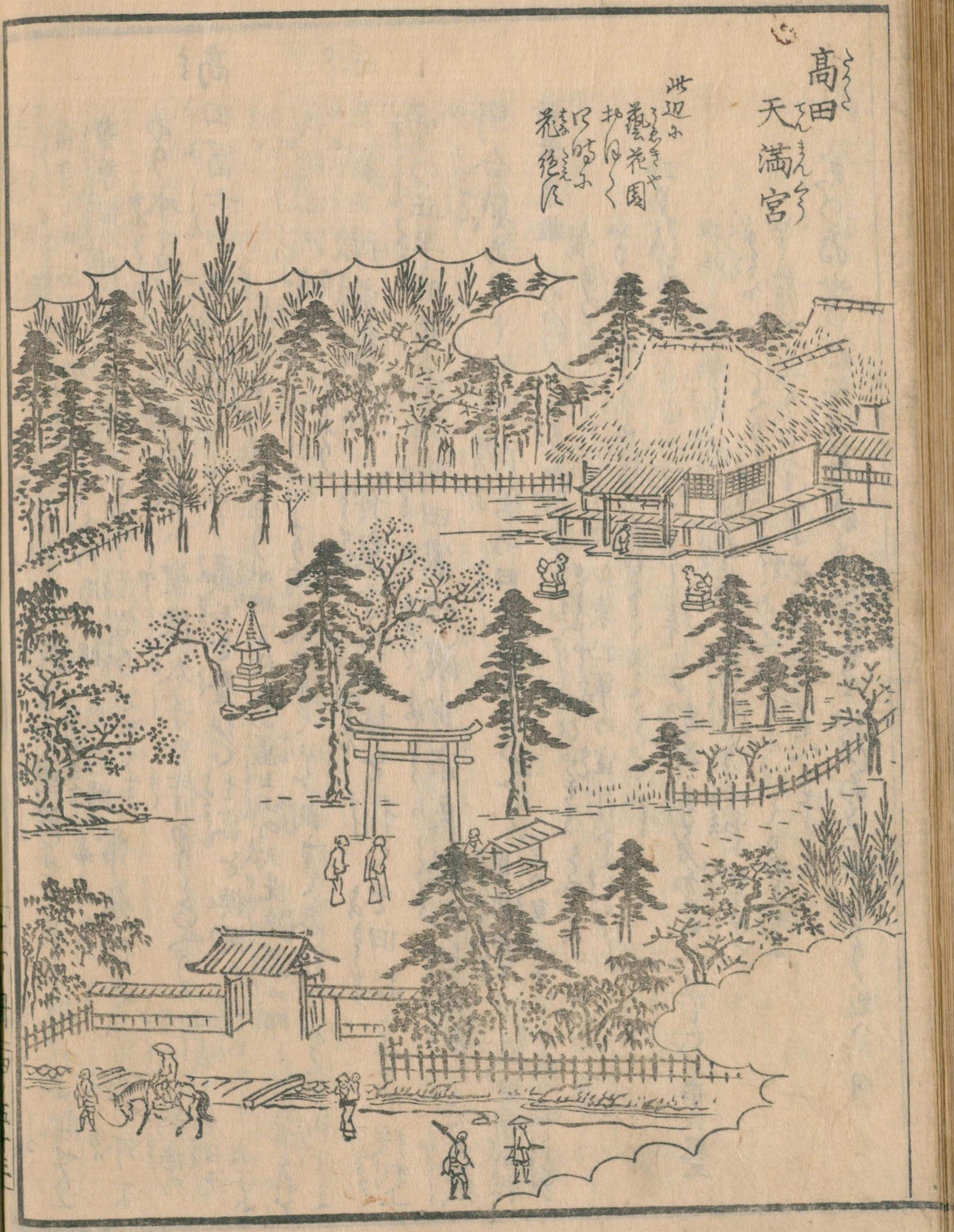
新葉集雑

あつまの方に久しく侍りてひたすらものゝふの
道にのみたつさはりつゝ征東将軍の宣旨なと下されしも
おもひの外なる様に覚えてよみ侍りし

おもひきや手にもふれさりし梓弓起ふし我身なれむものとは　宗良親王

おなし頃武蔵國へ打越て小手指といふ所におりゐて
手わけなとしはへりし時いさみあるへきよしはそのものゝふに
やしなはせまいりしついてに思ひつゝけ侍りし

君のため世のため何かをしからんすてゝかひある命なりせハ　同



高田天満宮

此辺に藝花園おほく四時に花絶ず

124
20
114

帝國圖書館藏